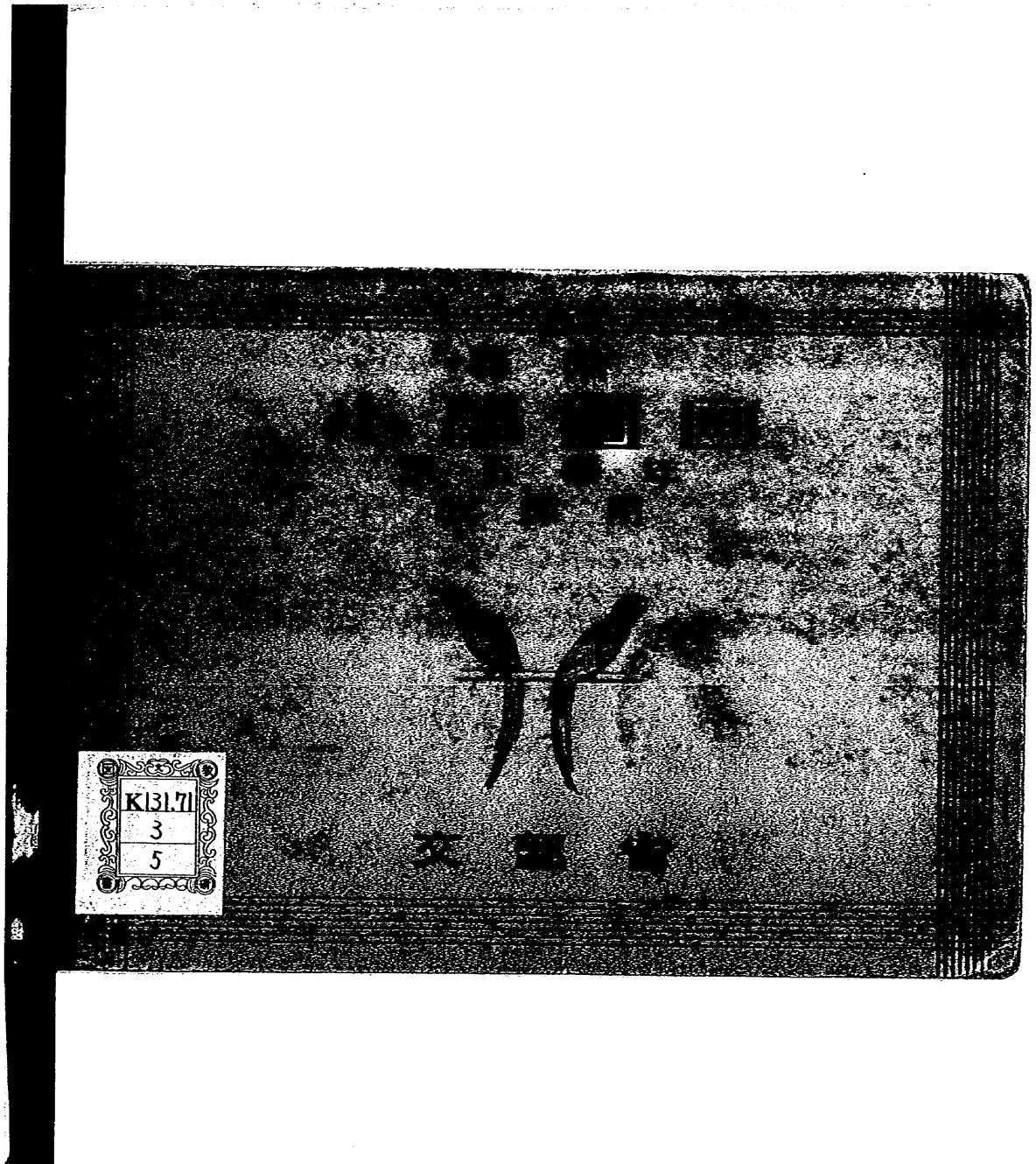
K131.71

3

5

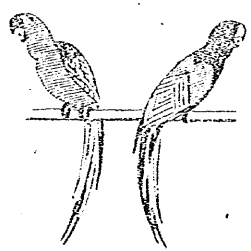


尋常

# 小學圖画

第五學年

教師用



文部省

K131.71
3
5

尋常

# 小學圖画

第五學年

教師用

27266

文部省

# 編纂趣旨

## 總　說

1. 尋常小學圖畫は、兒童の觀察・表現・鑑賞等の能力を育成し、以て生活の擴充を圖ろを旨とする。
2. 尋常小學圖畫は、現代に適切な美的陶冶をなし、且國民性の涵養に資するため、最も教材の選擇に留意し、又描寫の樣式の如きも和洋の別に拘泥することなく、兒童の性能を自由に伸ばすことに力めた。
3. 各學年の教授週數を四十とし、毎週所定の時數に應じて教材を配當した。
4. 尋常小學圖畫は、これを教師用と兒童用とに分けた。教師用は各學年一冊づつ、合計六冊とし、兒童用は第一學年から第四學年まで各學年一冊づつ、第五學年及び第六學年は更に男兒用女兒用に分ち、それぞれ一冊づつ、合計八冊とした。
5. 教師用は、各學年に於ける指導の要領並びに全教材の取扱方を說明し、且力めて多く參考の圖畫を掲げた。
6. 兒童用は、圖畫科の指導上特に必要なもののみを掲げたものであるから、教師用の活用によつて、始めて其の機能を完うすべきものである。

## 教　材

1. 教材は、兒童の趣味と理解とを考へ、美的要素に富み、且實際生活に關係の深いものを、出來るだけ廣い範圍から選んだ。

2. 教材の種類を次の如く分けた。

- 教材の種類
  - 表現教材
    - 自在畫
      - 思想畫
      - 寫生畫
    - 用器畫
      - 臨　畫
  - 鑑賞教材
    - 圖　案
  - 說話教材

3. 兒童の發達の程度に應じ、第一・二學年に於ては思想畫に重きを置き、これに寫生畫と圖案とを加へ、漸次學年の進むに隨つて、思想畫を減じ、寫生畫と圖案とを增し、且臨畫と用器畫とを加へた。鑑賞と說話とは、表現と關聯して各學年を通じこれを課することとしたが、特に重要な事項に就いては、別に課を設けた。

4. 教材は力めて各地方に共通なものを採り、實施の容易を期したが、土地の情況によつては、適宜これを變更しても妨げない。但し其の場合には、教師用に示した該課の目的に副ふものたるべきである。又季節に關係ある教材で、地方により變更の必要ある時は、適宜これを繰替へてよい。

## 材料・用具

1. 用紙は畫用紙を本體とするが、高學年に於ては、日本紙其の他適當なものを用ひさせてもよい。紙の大きさは兒童の能力、教材の如何等によつて定めらるべきものであるが、教師用には大體の標準を示して置いた。

2. 第一學年から第四學年までは、主としてクレヨン類を用ひさせ、第五學年からは、主として水絵の具、墨及び毛筆を用ひさせ、鉛筆は各學年を通じて適宜これを用ひさせる。

3. クレヨンは、第一學年及び第二學年に於ては、赤色・青色・空色・黄色・綠色・カーキ色・茶色・黑色の八色を、第三學年及び第四學年に於ては、これに草色・橙色・藍色・焦茶色・鼠色の五色を加へた十三色を用ひさせる。

4. 水絵の具は、朱色（バーミリオン）・紅色（クリムソン　レーキ）・空色（コバルト　ブリュー）・藍色（インヂゴー）・黄色（クローム　エロー）・淡黄色（レモン　エロー）・黄土色（エロー　オーカー）・綠色（ビリヂヤン）・代赭色（ライト　レッド）・茂色（バーント　シエンナ）・黑色（アイボリー　ブラック）・白色（チャイニーズ　ホワイト）の十二色を用ひさせる。但し土地の情況によつて、適宜色數を減じてもよい。

5. 第三學年から尺度及び三角定規を、第四學年からこれにコンパスを加へ用ひさせる。

## 指　　導

1. 教科書の活用に力め、個人指導に重きを置き、兒童の性能を自由に發揮せしむべきである。但し徒に放任に流れてはならない。

2. 各學年に於て指導上力を注ぐべき點は、大體次の通りである。

第一學年　思想を豐かにし、自由表現を尊び、描寫の趣味を養ふことに力めろ。

第二學年　一層描寫の趣味を高め、豐富に表現させろ。

第三學年　概念的な描寫から次第に具體的な描寫に導き、觀察の指導をする。

第四學年　形及び明暗に對する觀察を深め、合理的な表現の指導をする。

第五學年　水絵の具の扱方を知らせ、色彩に對する觀念を確實にする。

第六學年　觀察・表現・鑑賞等の能力を高め、美的で確實な表現を重んじ、實生活との關係を一層密接ならしめる。

# 目　　錄

## 第五學年の指導要領

### 第一學期


1. 繪の具と色彩に就て……說　話（男女二時間）　第一圖（男第一圖 女第一圖）色の表
2. 紙風船……臨　畫（男女二時間）　第二圖（男第二圖 女第二圖）紙風船
3. 草花……寫生畫（男二時間）　第三圖（男第三圖）草花
4. びん……寫生畫（男二時間）　第四圖　びん
5. 壺……寫生畫（男女二時間）　第五圖（男第四圖 女第三圖）壺
6. 樹木……寫生畫（男女二時間）　第六圖（男第五圖 女第四圖）樹木 其の一
　第七圖　樹木 其の二
7. 景色……寫生畫（男四時間）　第八圖（男第六圖）景色 其の一
　第九圖　景色 其の二
8. かうもりがさ……寫生畫（男二時間）　第十圖（男第七圖）かうもりがさ
9. 野菜……寫生畫（男二時間 女一時間）　第十一圖（男第八圖 女第五圖）野菜

10. 魚……臨　畫（男女二時間）　第十二圖（男第九圖 女第六圖）魚
11. 書物……寫生畫（男四時間 女二時間）　第十三圖（女第七圖）書物
12. うちは……圖　案（男四時間 女二時間）　第十四圖（男第十圖 女第八圖）うちは

第二學期

13. 夏休の思出……思想畫（男女二時間）　第十五圖（女第九圖）夏休の思出
14. 西瓜……寫生畫（男二時間）　第十六圖（男第十一圖）西瓜
15. 兎……寫生畫（男女二時間）　第十七圖（女第十圖）兎
16. 兎の模樣……圖　案（男女二時間）　第十八圖（男第十二圖 女第十一圖）兎の模樣
17. 正多角形……用器畫（男女二時間）　第十九圖（男第十三圖 女第十二圖）正多角形
18. 植木鉢臺の製圖……用器畫（男四時間）　第二十圖（男第十四圖）植木鉢臺の製圖
19. 秋の草花……臨　畫（男二時間）　第二十一圖（男第十五圖）秋の草花
20. 菊の花……寫生畫（男女二時間）　第二十二圖（女第十三圖）菊の花
21. 秋の景色……寫生畫（男二時間）　第二十三圖（男第十六圖）秋の景色 其の一
　　第二十四圖　秋の景色 其の二
22. 葉……寫生畫（男二時間 女一時間）　第二十五圖（男第十七圖 女第十四圖）葉
23. 葉の模樣……圖　案（男女二時間）　第二十六圖（男第十八圖 女第十五圖）葉の模樣 其の一
　　第二十七圖　葉の模樣 其の二
24. 倚子……寫生畫（男二時間）　第二十八圖（男第十九圖）倚子
25. ポスター……圖　案（男四時間 女二時間）　第二十九圖（男第二十圖 女第十六圖）ポスター

第三學期

26. 鞄……寫生畫（男二時間）　第三十圖（男第二十一圖）鞄
27. 裁縫箱……寫生畫（女二時間）　第三十一圖（女第十七圖）裁縫箱
28. 學用品……寫生畫（男二時間）　第三十二圖　學用品
29. アイロン……寫生畫（男女三時間）　第三十三圖（男第二十二圖 女第十八圖）アイロン
30. やくわん……寫生畫（男三時間）　第三十四圖（男第二十三圖）やくわん
31. びんに壺……寫生畫（男四時間 女三時間）　第三十五圖（男第二十四圖 女第十九圖）びんに壺
32. 果物……寫生畫（男二時間）　第三十六圖（男第二十五圖）果物
33. 野菜……寫生畫（男二時間）　第三十七圖（男第二十六圖）野菜
34. 果物に野菜……寫生畫（女二時間）　第三十八圖（女第二十圖）果物に野菜
35. 果物に野菜……思想畫（男二時間）　第三十九圖　果物に野菜

## 第五學年の指導要領

**指導の方法**　第五學年に於ては、主として水繪の具を使ふ表現と、その作品の鑑賞に導き、特に色彩に關して一層進んだ陶冶をなし、併せて生活の内容を豐かにする。

指導の要領は、もとより教材の性質と種類とによつて一樣でないが、寫生畫に於てはモデルの形狀・色彩・明暗をよく觀察させ、輪廓を確實に取つてから色で畫かせる。色で畫くには、繪の具の解き方・混ぜ方・塗り方に注意させ、色の濁らぬやうにさせるのが大切である。繪の具は必要な分量を見計らつて、なるべく過不足のないやうに解かせる。

畫き方には乾法と濕法とあるが、教材・時間・季節等を考へて、適當な方法を取らせるがよい。先づ畫面を傾け、毛筆に繪の具を適度に含ませ、繪の具を紙の上に置いて行くやうな心持で、手順よく畫かせる。さうして大體の色彩と明暗とをきめて、漸次細部に及すやうに指導する。徒に消ゴムを使つて紙面を損じたり、同じ所を何度も塗りなほしたり、繪の具をこすりつけたりすることを避けさせるがよい。尙、所謂鉛筆淡彩も有効な方法であるから、教材の性質により適宜之を採用するがよい。

**材料・用具**　用紙は白の畫用紙がよいが、畫くものによつては木炭畫紙・色畫用紙・日本紙等を使はせても

よい。大きさは畫用紙の九つ切、乃至半紙大を標準とする。

水繪の具は、第一圖に示す十二色を用ひさせる。勿論土地の情況によつては、色數を減じてもよい。

墨は、なるべくその都度磨つたものを使はせるがよい。

毛筆は、相當に太いまる筆がよく、穂の腰のあまり弱いものは避けしめる。但し特に細い線を畫く場合には、書方細字用の小筆を使はせるがよい。

以上の外、適當なパレツト・筆洗・布片・消ゴム・羽帚、及び用器畫や圖案には、尺度・三角定規・コンパス等を要する。

屋内寫生のモデルは、相當に大きいものを準備し、なるべく適當なモデル臺を備へて、觀察に便するがよい。

屋外寫生には、特に畫板・腰掛、及び水の用意が大切である。畫板は、用紙よりも稍大きい木製又は板紙製がよい。腰掛は普通のものでもよいが、三脚を備へることが出來れば一層便利である。水は、適當な容器になるべく澤山用意するがよい。

この外、參考品・蜜鉢・色白墨・敎鞭等を要する。

# 第　一　學　期

## 1.　繪の具と色彩に就いて　　說話　男女　二時間

**要旨**　水繪の具の性質・色名等を知らせ、併せて色彩に就いて觀念を明らかにする。

**準備**　說明用材料及び用具。

**指導**　1. 第一圖（男・女第一圖）の右方の色の表は、主な水繪の具の色を示したものであること、及びその色名に就いて知らせる。

2. 水繪の具は、重色すること、混色すること、及び濃淡を出すことが自由であり、數種の繪の具で複雜な色調を多種多樣に出すことが出來、又細い線を畫くことや、廣い面積を手早く塗ること等も出來るから、クレヨンに比してずつと進んだ表現材料であることを知らせる。

3. パレツトの上に繪の具を出すには、置き場所の順序をきめて出すべきことを知らせ、繪の具を出させる。

4. 水繪の具の解き方、混ぜ方、筆に含ませ加減、塗り方等に就いて示範し、兒童に試みさせる。

5. 水繪の具・筆・パレツト等の保管法に就いて知らせる。

6. 第一圖左方の色の表は、大體日光スペクトルに現れる主な色を摸して排列したものである。これら

の色を繪の具で現す場合に、黄橙色・橙色・赤橙色の三色は黄色と赤色とを、黄綠色・綠色・青綠色の三色は黄色と青色とを、青紫色・紫色・赤紫色の三色は青色と赤色とを、適當の分量に混ぜ合はせることによつて出來る。赤・黄・青の三色を繪の具の三原色といひ、他の九色の如きものを第二次色といふことを知らせる。

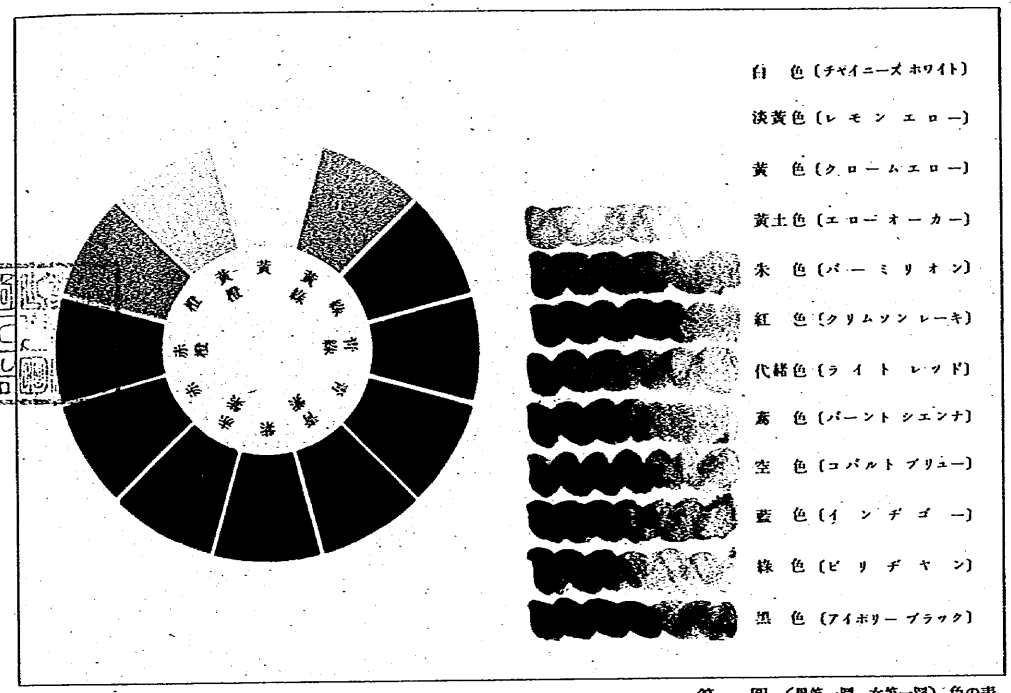
7. 繪の具の三原色を適當の分量に混ぜ合はせるか、第二次色と原色、第二次色と第二次色とを適當に混ぜ合はせれば、種々くすんだ色の出來ることを説明する。

**備考** 1. 色彩に就いては、光學上、又心理學・生理學上から見て、種々重要な問題があるが、兒童はまだそれらに觸れる程度に達してゐないから、こゝでは水繪の具を中心として、初歩の色彩常識を與へる程度に止むべきである。

2. 色の明暗、熱色・寒色等に就いても、便宜指導するがよい。

3. パレットに繪の具を出す順序は、一定してはゐないが、第一圖右表に示す如くするのが便利である。順序なく出させぬがよい。

4. 水繪の具・筆、其の他の用具の保管に就いては、常に注意し、混雜に流れぬやうにさせる。




第一圖（男第一圖 女第一圖）色の表

## 2. 紙風船　臨畫　男女　二時間

**要旨**　紙風船を畫かせて、水繪の具の使ひ方を習はせる。

**指導**　1. 水繪の具の色名に就いて復習する。

2. 第二圖（男・女第二圖）を觀察させ、各部の曲度に注意して輪廓を取らせる。

3. 各部分の色彩に就いて、何色と何色とを使へばよいかを考へさせ、その大體を知らせる。

4. 水繪の具の解き方、筆への含ませ方、塗り方等に就いて示範し、說明する。

5. 初に大體の色合・調子を畫き、漸次細部を畫いて仕上げさせる。

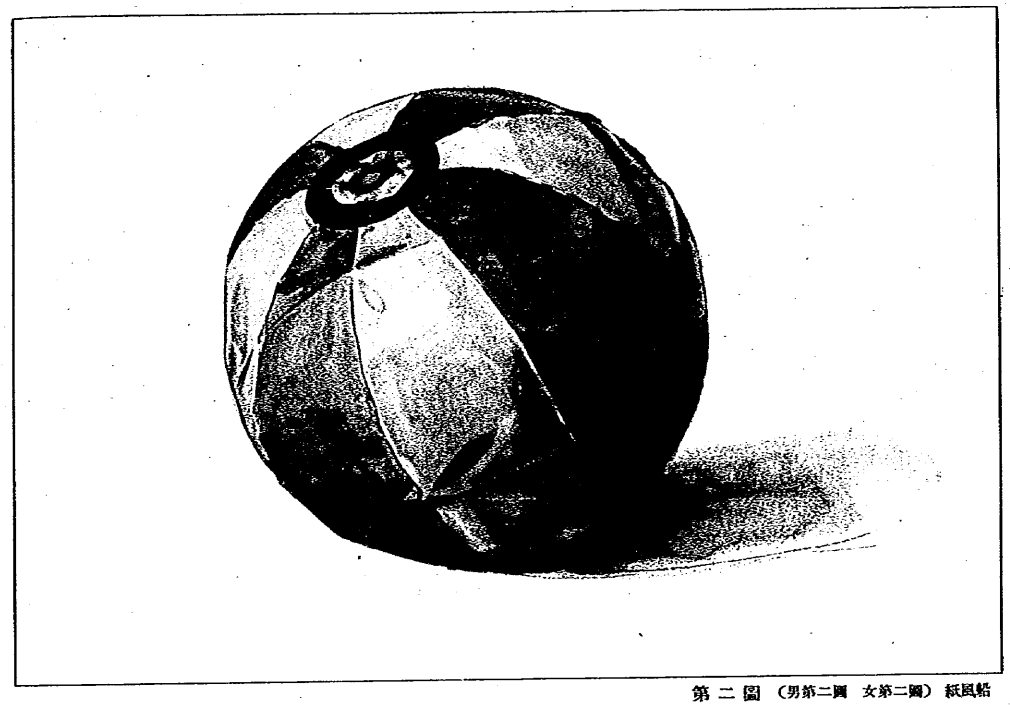
**備考**　1. 第二圖は、大體に於て乾法によつて畫いたものである。

2. 類似の色合・調子の所は、なるべく同時に畫くやうにし、暗部は塗り重ねて畫いてもよいが、一度塗つた色は、最後まで意味を持つやうに注意させるがよい。

3. 熟練すれば、パレットの上で混ぜただけで、如何なる發色になるかの見當がつくが、初の中はなかなか見當がつかぬから、別の紙に試し塗りをしてから畫かせてもよい。

4. 隣合はせに異つた色を塗る場合には、一方の色が乾いてから塗らせるがよい。

5. むやみに色々な色を混ぜたり、塗つた色の乾かぬ上をこすつたりして、濁さぬやうに注意させる。尙兒童はクレヨンでこすりつけて畫く癖がついてゐるため、水繪の具の場合もとかくこする傾きがあるから、特に注意して指導する要がある。



第二圖（男第二圖　女第二圖）紙風船

## 3. 草　　花　　寫生畫　男　二時間

**要旨**　草花を寫生させて、その花の特性を大摑みに表現し、併せて水絵の具の使ひ方になれさせる。

**準備**　花。

**指導**　1. 第三圖（男第三圖）を鑑賞させ、筆觸・省略法等を味はせる。

2. 適當な花を數箇所に配置し、その形狀・色彩、及び特性に就いて觀察させる。

3. 構圖を考へて輪廓を取らせる。

4. 各部の色彩を如何なる水絵の具で表現すべきかを考へて、大膽に畫かせる。

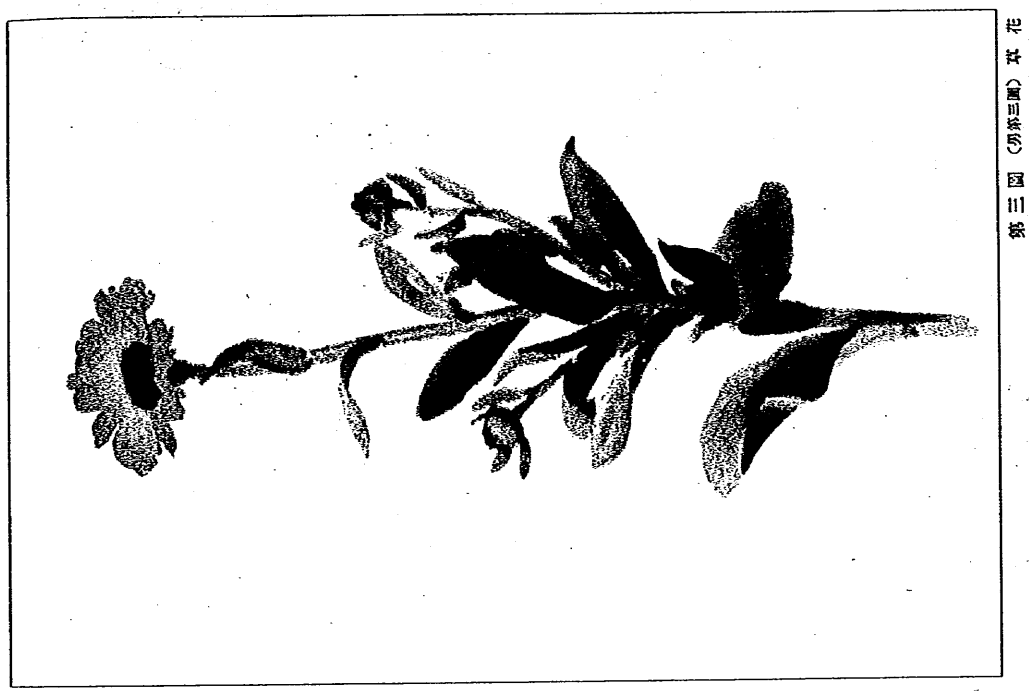
**備考**　1. 第三圖は、きんせんくわを畫いたものである。

2. 花はなるべく大輪で、形のあまり複雜でないものがよい。

3. 表現は細部に拘泥することなく、大膽になさしめ、濃い部分もなるべく一二度で畫くやうにさせるがよい。

4. 鉛筆で畫いた輪廓線を生かして表現することもよいが、その線にとらはれすぎて堅くならないやうにさせることが肝要である。

5. 兒童は綠色の變化を出し難いものであるから、特に注意して指導すべきである。



第三圖（男第三圖）草花

## 4.　び　　ん　　寫生畫　男　二時間

**要旨**　びんを寫生させて、半透明の物體の畫き方を會得させ、表現力を養ふ。

**準備**　びん。

**指導**　1. びんを適當な場所數箇所に配置し、その形狀・色彩・明暗に就いて觀察させる。

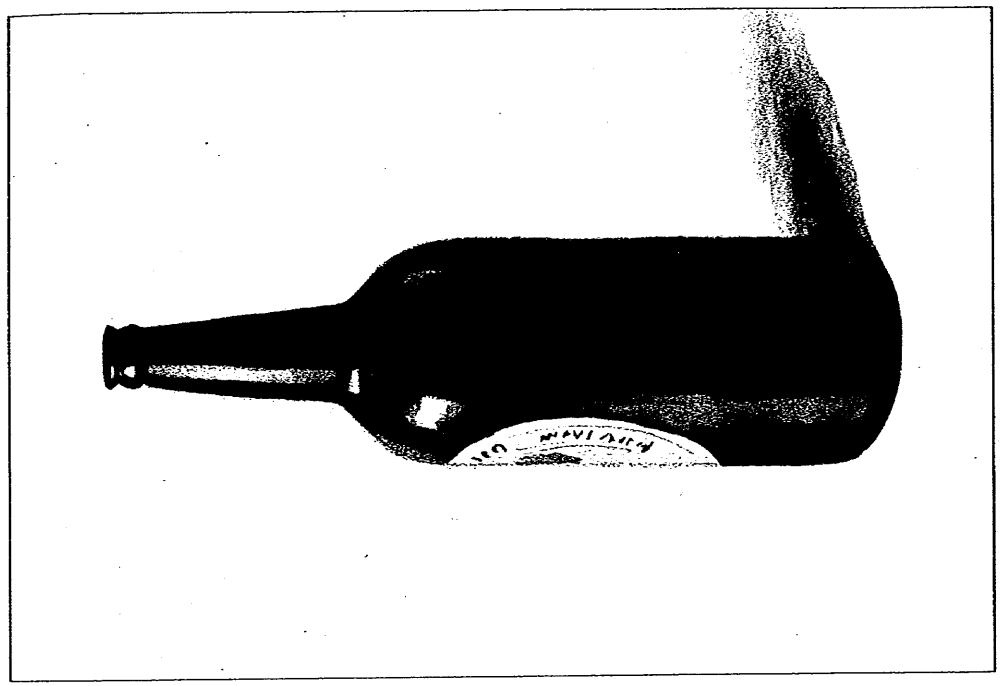
2. 鉛筆で輪廓を取らせる。

3. 色彩・明暗に注意し、先づ大體の着色をなし、漸次細部を畫いて仕上げさせる。

**備考**　1. びんは第四圖に示す如き、あまり小さくない半透明のものがよい。

2. 輪廓は十分に修正して、しつかり取らせるがよい。尙輪廓は外廓線・レッテルの形等ばかりでなく、明部・暗部の主な區劃の形も取らせて置くがよい。

3. 最光部の表現には、特に注意して調子外れにならぬやう指導するがよい。



第四圖　び　ん

## 5.　壺　　寫生畫　男 女　二時間

**要旨**　壺を寫生させて、光澤ある物體の畫き方を會得させ、表現力を養ふ。

**準備**　壺。

**指導**　1. 第五圖（男第四圖・女第三圖）を鑑賞させ、光澤ある物體の最光部、陰の部分、反射部等の現し方を理解させる。

2. 壺を適當な場所數箇所に配置し、その形狀・色彩・明暗等に就いて觀察させる。

3. 輪廓を取らせる。

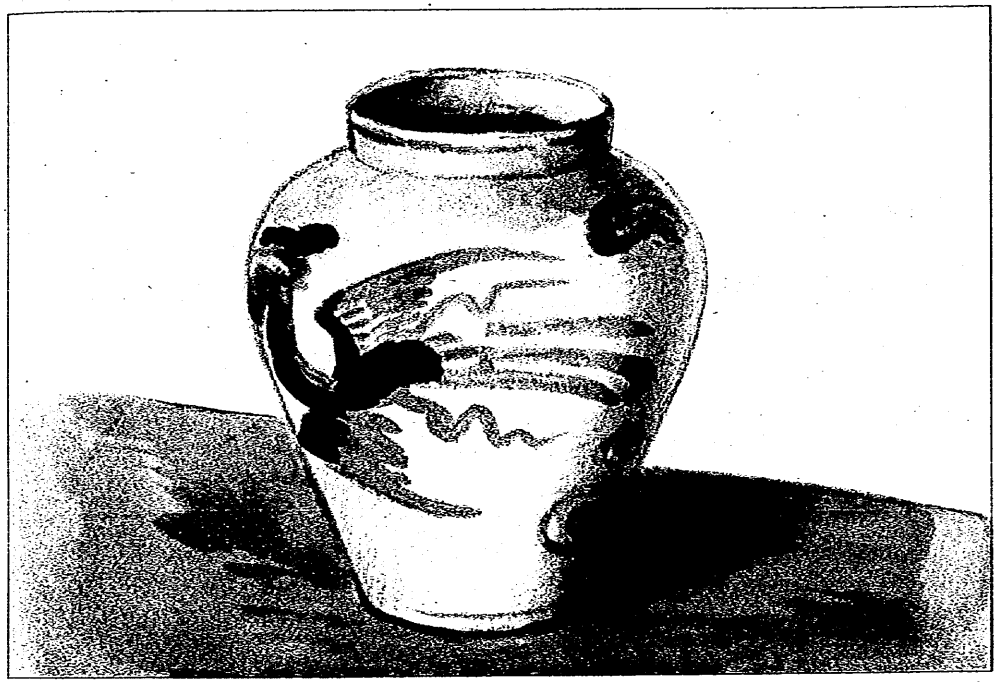
4. 先づ大體の着色をなし、漸次細部を畫いて仕上げさせる。

**備考**　1. 第五圖は朝鮮李朝燒の壺を畫いたものである。

2. 輪廓は單に外廓線を畫くだけでなく、主な明暗の區劃も畫かせるがよい。

3. 壺の表面にある模樣が、壺の面に附いてゐるやうに表現することに注意せしめる。尙、模樣が地の色よりも明るい場合や、地の色と著しく色合を異にしてゐる場合の外は、地の色彩・陰影の大體を畫いてから後に畫かせるがよい。

4. テーブルは、場合により畫かないでもよい。若し畫く場合には、壺と同時に調子を整へながら畫かしむべきである。



第五圖（男第四圖　女第三圖）壺

## 6. 樹　　木　　寫生畫　男女　二時間

**要旨**　樹木を寫生させて、その特性を會得せしめ、屋外寫生になれさせる。

**準備**　屋外寫生用具。

**指導**　1. 第六圖（男第五圖・女第四圖）を鑑賞せしめ、樹木寫生の構圖・省略法等に就いて知らせる。第七圖參照。

2. 大體の場所を指示し、屋外寫生用具を持つて、寫生すべき場所に行かせる。

3. 寫生すべき樹木、寫生すべき位置を決定させる。

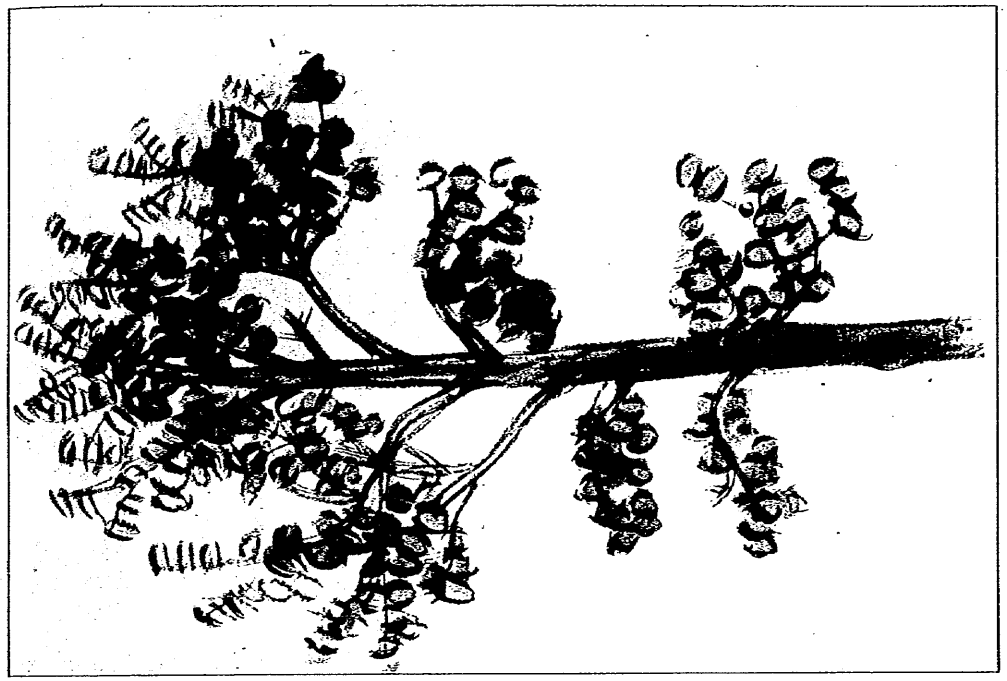
4. 構圖を考へて輪廓を取らせる。

5. 先づ大體の着色をなし、漸次細部を畫いて仕上げさせる。

**備考**　1. 第六圖は、新芽を吹いた椎の木を畫いたものである。

2. 樹木は全體を畫かせてもよく、第七圖に示す如く部分を畫かせてもよい。

3. 寫生すべき樹木は、豫め調査をして置き、外へ出てから時間を空費しないやうに注意すべきである。



第六圖（男第五圖　女第四圖）樹木　其の一

第七圖　樹木　其の二

## 7. 景　　色　　寫生畫　男　四時間

**要旨**　景色を寫生させて、風景畫の構圖・省略法等を會得せしめ、表現力を練る。

**準備**　屋外寫生用具。

**指導**　1. 第八圖（男第六圖）を鑑賞させ、その構圖・省略法、線の變化等を味はせる。

2. 風景畫の構圖に就いて知らせる。第九圖參照。

3. 寫生すべき大體の場所を指示し、屋外寫生用具を持つて、その場所に行かせる。

4. 場所を決定させる。

5. 構圖を考へて輪廓を取らせる。

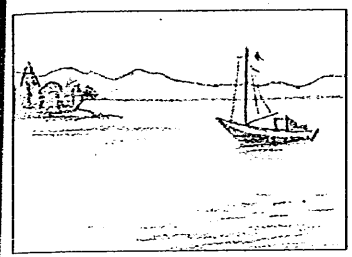
6. 自然の色をよく觀て着色させ、順序よく仕上げさせる。

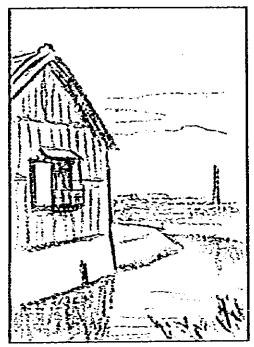
**備考**　1. 構圖の指導は一通りの説明をする外、實際の場所に就いて、遠景・中景・近景の入れ方、仕切方に就いて知らせるがよい。

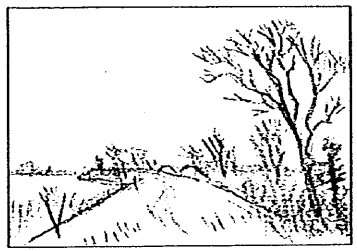
2. 本課は二週間にまたがつて寫生させるのであるから、第一週は主として構圖を定め、輪廓を取ることに當て、第二週に着色させるがよい。

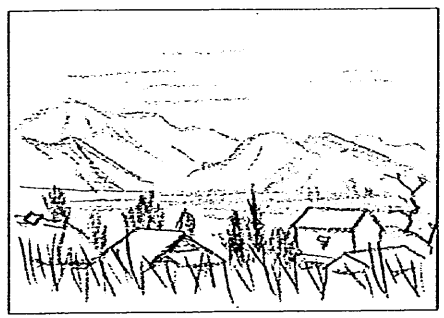
3. あまりに淡い色を度々塗り重ねて行くことは、時間も多くかゝり、發色も損はれるから避けさすべきであるが、又いきなり强烈な色を塗つて、調子外れになることは戒むべきである。

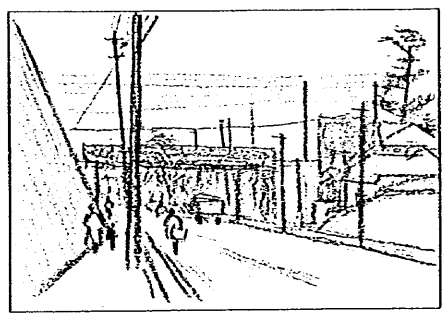
第八圖（男第六圖）景　色　其の一











第九圖　景色其の二

## 8.　かうもりがさ　　寫生畫　男　二時間

**要旨**　かうもりがさを寫生させて、觀察力と描寫力とを養ふ。

**準備**　かうもりがさ。

**指導**　1. 第十圖（男第七圖）を鑑賞させ、布片その他の畫き方を知らせる。

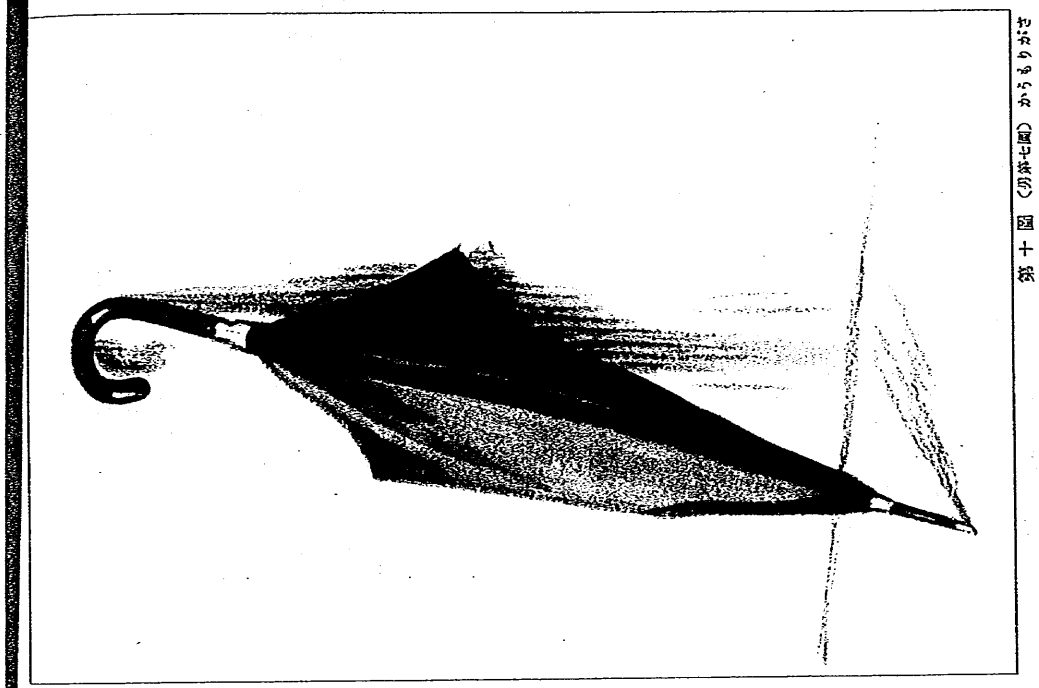
2. かうもりがさを教室内數箇所の壁に立てかけ、又は掛けて、その形狀・色彩・明暗に就いて觀察させる。

3. 構圖を考へて輪廓を畫かせる。

4. 初に大きな調子を整へ、漸次細部を畫いて仕上げさせる。

**備考**　1. 第十圖は鉛筆の線を生かして畫いてあるが、繪の具だけで畫かせてもよい。

2. 梅雨期は水繪の具の乾きが惡いから、なるべく塗り重ねる度數を少くして、濃い部分も一度にその調子を出すやうにさせるがよい。



第十圖（男第七圖）かうもりがさ

## 9. 野　　菜　　寫生畫　男 二時間　女 一時間

**要旨**　野菜を寫生させて、その特性を觀察し表現する力を養ふ。

**準備**　野菜。

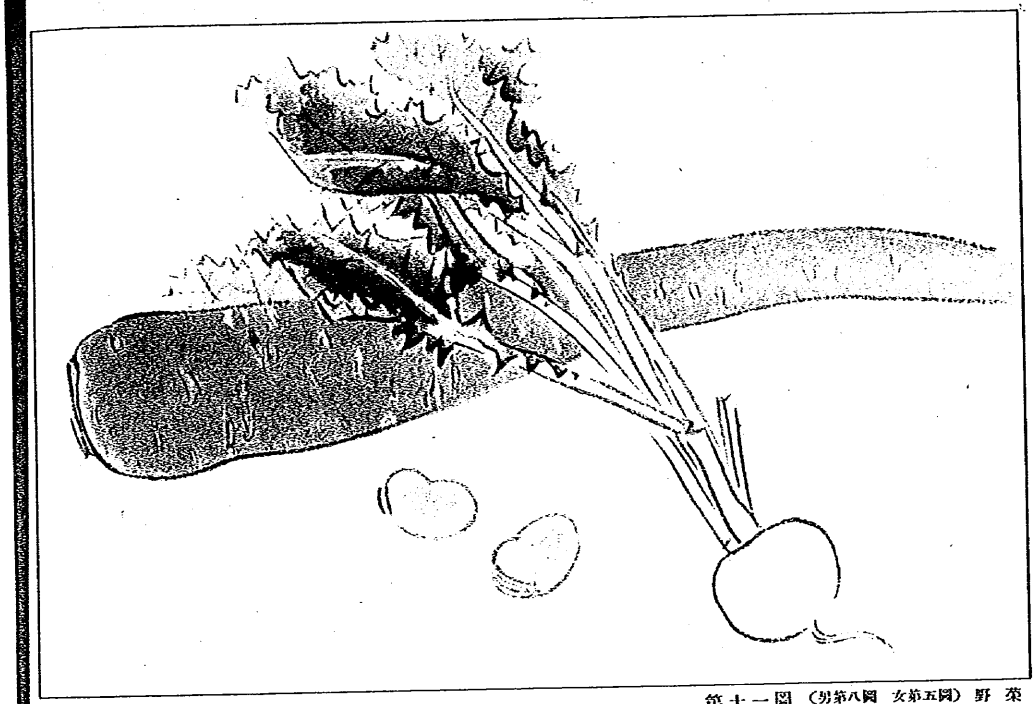
**指導**　1. 第十一圖（男第八圖・女第五圖）を鑑賞させ、その表現法を理解させろ。

2. 野菜を教室内數箇所に配置し、その形狀・色彩等を觀察させろ。

3. 構圖を考へて輪廓を取らせ、色で畫かせろ。

**備考**　1. 本課は男兒には二時間、女兒には一時間の配當になつてゐるから、男女によつてモデルの選擇、描法等に手心を加ふべきである。

2. モデルに用ゐる野菜は、形狀・色彩・大きさ等を考へて、配合のよいものを組合はせて畫かせろがよい。但し女兒には、時間の關係上一種類のものを畫かせてもよい。



第十一圖（男第八圖　女第五圖）野　菜

## 10.　魚　臨畫　男女　二時間

要旨　臨畫によつて魚の畫き方を知らせ、水繪の具の使ひ方に習熟させる。

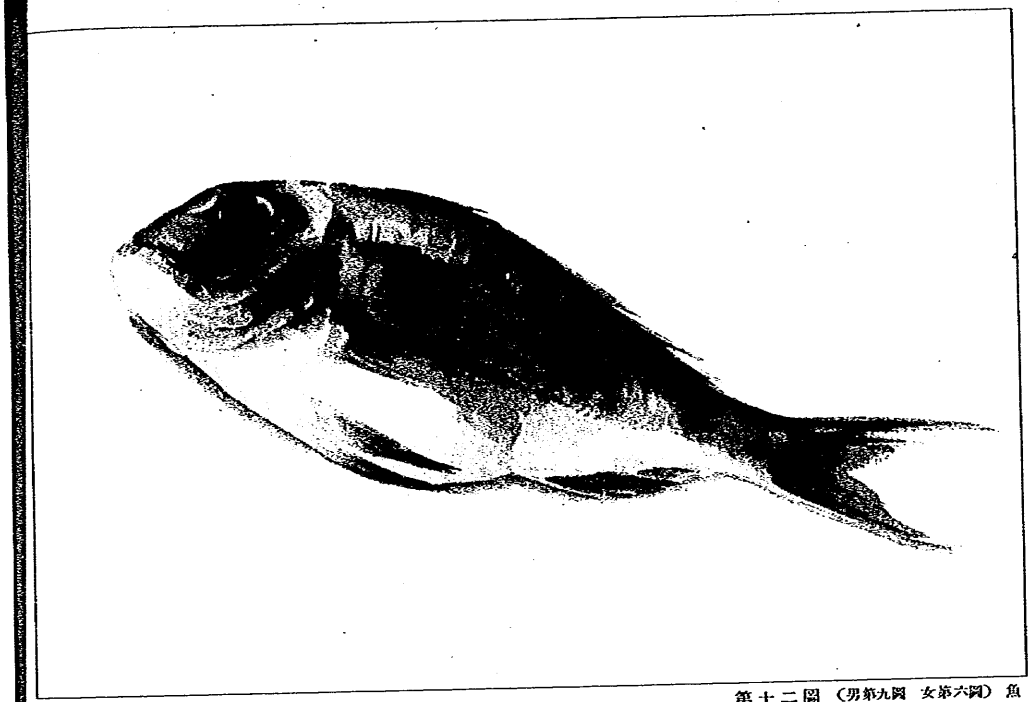
指導　1. 第十二圖（男第九圖・女第六圖）を鑑賞させ、鯛の形狀・色彩等に關する觀念を明らかにする。

2. 輪廓を取らせる。

3. 先づ大體の着色をなし、よく範畫の筆觸を觀察しながら、漸次細部を畫いて仕上げさせる。

備考　1. 臨畫でも、出來れば實物又は模型等によつて、形態其の他の明瞭な觀念を與へてから畫かせるがよい。

2. 範畫は色彩に於て赤を基調としてゐるが、相當複雜な色をしてをり、且光澤が現してあるから、それらに注意するやう指導すべきである。



第十二圖（男第九圖　女第六圖）魚

## 11. 書　　物　　寫生畫　男　四時間　女　二時間

**要旨**　書物を寫生させて、立方體に屬するものの遠近による形の變化を觀察させ、且表現力を養ふ。

**準備**　書物。

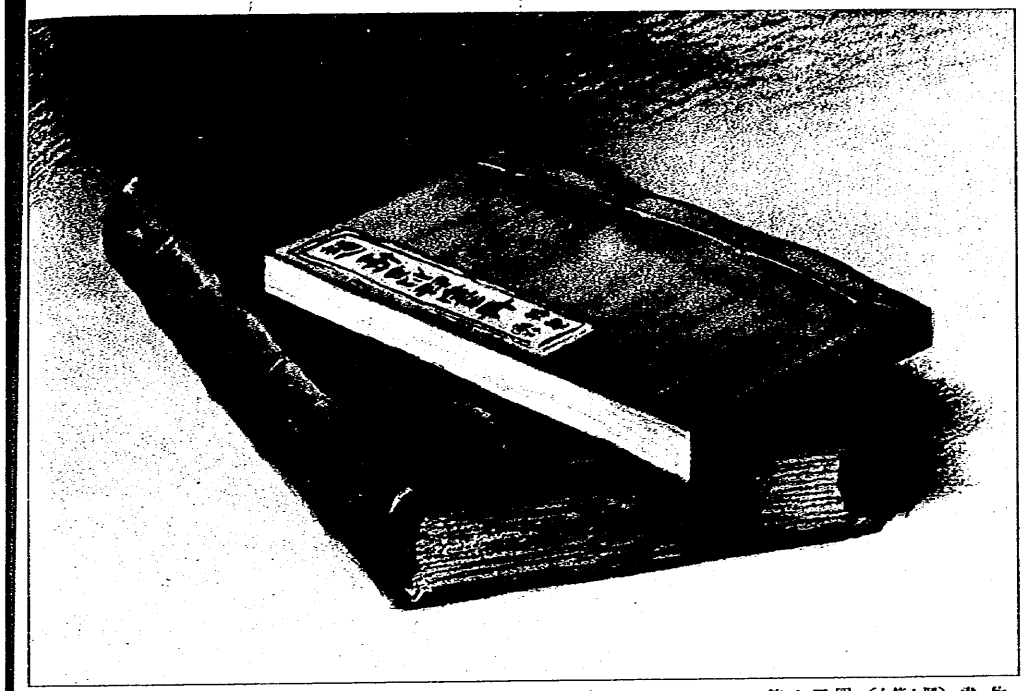
**指導**　1. 書物を教室内數箇所に配置し、その形狀・色彩・明暗に就いて觀察させる。

2. 構圖を考へ、遠近による形の變化をよく觀察して輪廓を取らせる。

3. 任意の方法によつて描寫させる。

**備考**　1. 本課は男兒には四時間を配當してあるから、形の表現も、色彩・明暗の表現も十分研究的になすやう指導し、女兒には二時間を配當してあるから、モデルの選擇も表現法もそれに適するやうに指導すべきである。

2. 第十三圖（女第七圖）は鉛筆の線が多く用ひてある。かういふ畫き方も便宜な方法であるが、鉛筆の線が目障りにならぬやうに注意するがよい。



第十三圖（女第七圖）書　物

## 12. うちは　図案　男 四時間　女 二時間

**要旨**　うちはの図案をさせて、創意を練り、應用の力を養ふ。

**準備**　參考品・尺度・三角定規・コンパス。

**指導**　1. 第十四圖（男第十圖・女第八圖）及びうちはの參考品を鑑賞させて、その形及び模様を考案する要點を知らせる。

2. 先づうちはの形とそれに適合する模様とを、下畫き用紙に畫かせ、十分に案を練らせる。

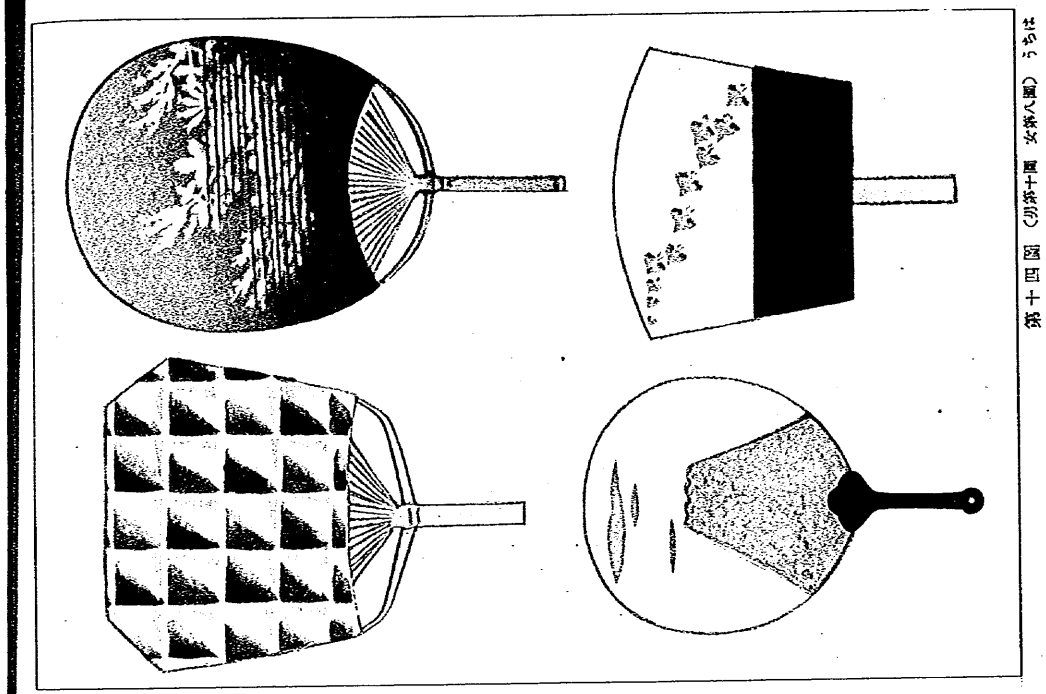
3. 案がきまつてから、便宜尺度・三角定規・コンパス等を用ひて、正確に形を畫かせる。

4. 形が畫けてから、模様の輪廓を取り、着色して仕上げさせる。

**備考**　1. 本課は時間の關係上、女兒には、うちはの形と模様と兩者を考案させることは困難であらうから、便宜形だけの図案を畫かせるか、又は形を與へてそれに模様だけを施させるかしてもよい。

2. 形と模様とは、よく調和するやうに指導すべきである。

3. 考案した形を切抜かせて、それに模様を畫かせてもよく、又模様だけを考案させる場合には、無地のうちはに畫かせてもよい。



第十四圖（男第十圖　女第八圖）うちは

# 第　二　學　期

## 13.　夏休の思出　思想畫　男女　二時間

**要旨**　夏休の思出を畫かせて、構想力を練り、思想の發表をさせる。

**指導**　1. 夏休に經驗したこと、及び見聞したことの中、畫として現すに適當なものを選ばせる。

2. 如何に表現するかを考へさせる。

3. 輪廓を取らせ、色で仕上げさせる。

**備考**　1. 表現する事柄は、兒童の生活圏内から取らせるがよい。

2. 夏の感じを現すことに力めさせる。第十五圖（女第九圖）參照。

第十五圖（女第九圖）夏休の思出

## 14. 西　　瓜　　寫生畫　男　二時間

**要旨**　西瓜を寫生させて、その特性を觀察し、質の感じを現す力を養ふ。

**準備**　西瓜・盆、又は皿。

**指導**　1. 第十六圖（男第十一圖）を鑑賞させ、その現し方を明らかにする。

2. モデルを適當な場所に配置し、その置き方・形狀・色彩等を觀察させる。

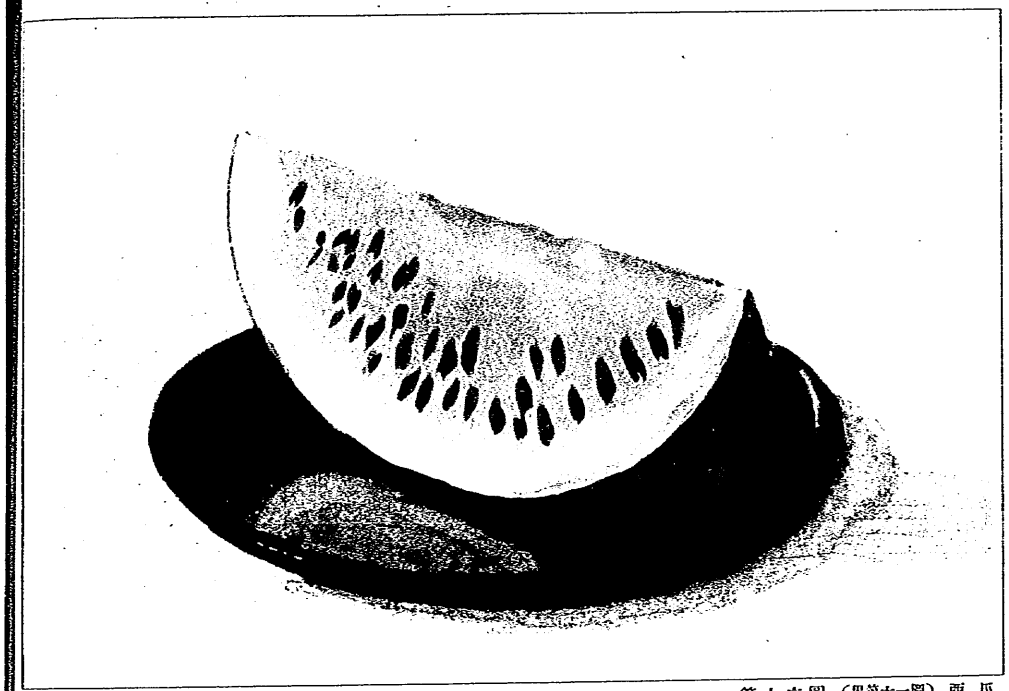
3. 位置及び構圖を考へて、正しく輪廓を取らせる。

4. 色彩及び明暗に注意して、先づ大體の着色をさせ、漸次細部に及して仕上げさせる。

**備考**　1. 西瓜は、切つたものの方が畫材として適當である。第十六圖參照。

2. 西瓜の得がたい場合には、便宜他の蔬菜・果物等を畫かせる。

3. 實物の色をよく見て、明暗及び質の感じを現すことに力めさせる。



第十六圖（男第十一圖）西瓜

## 15.　兎　　寫生畫　男女　二時間

**要旨**　兎を寫生させて、觀察力を高め、獸の畫き方を會得させる。

**準備**　兎の剝製。

**指導**　1. モデルを適當な場所に置き、その全形、及び各部の形狀・色彩をよく觀察させる。

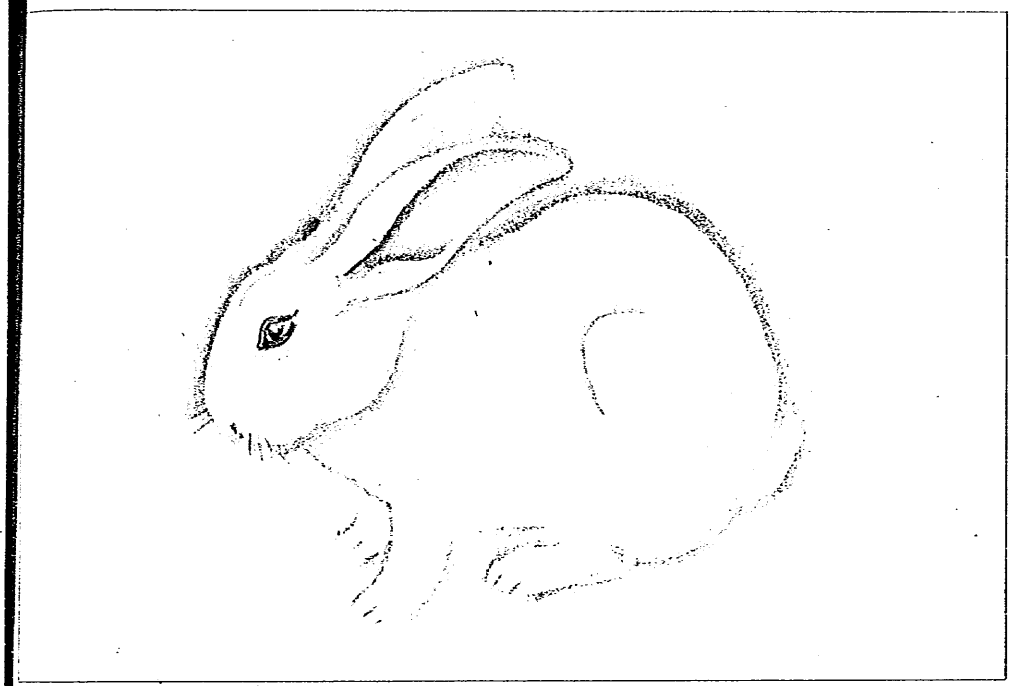
2. 位置及び構圖を考へて、輪廓を整へさせる。

3. 先づ大體の色彩をきめて、漸次細部を仕上げさせる。

**備考**　1. 第十七圖（女第十圖）は、淡墨の片ぼかしに依つて、白兎の形・色等を現したものである。

2. モデルは褐色でも白色でもよいが、學校に飼養してある時は、それを畫かせてもよい。

3. 鉛筆淡彩其の他の方法で畫かせてもよい。



第十七圖（女第十圖）兎

## 16. 兎の模様　図案　男女　二時間

**要旨**　兎を資料として模様を遊かせ、考案を練らせる。

**指導**　1. 第十八図（男第十二図・女第十一図）を鑑賞させ、その図案構成に就いて知らせる。

2. 着想及び構成に就いて、考を練らせる。

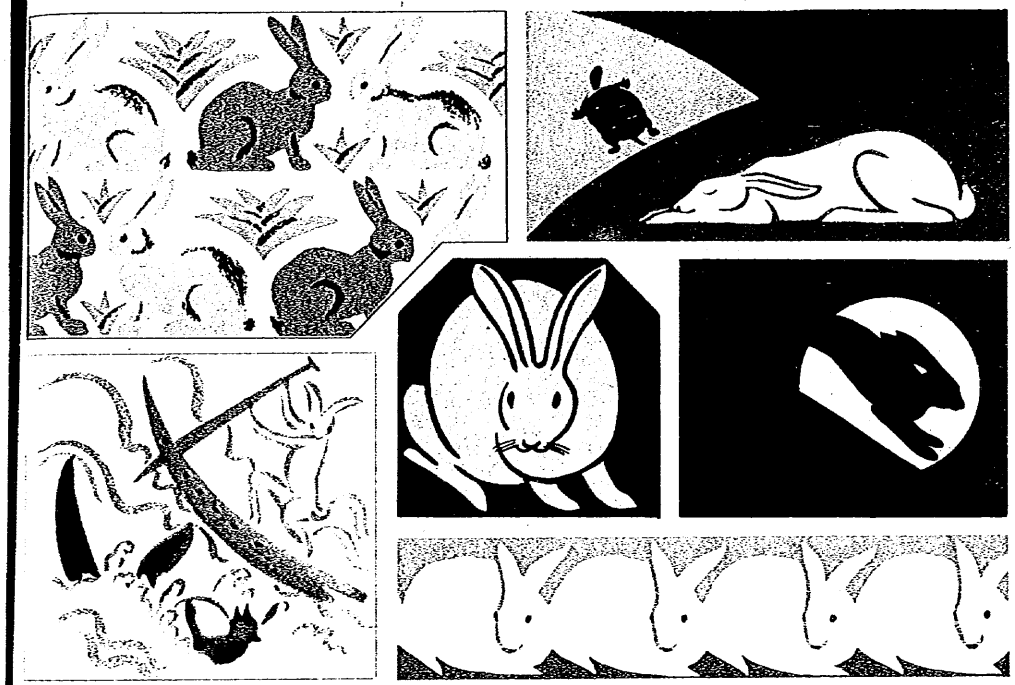
3. 下図を畫かせる。

4. 色の配合を考へて、着色し、仕上げさせる。

**備考**　1. 獨立模様とするも、二方連続模様とするも、絵模様とするも、各自の随意にさせるがよい。

2. 形狀はなるべく單純化し、配色に就いては特に注意して指導するがよい。

3. 便宜切抜きに依つて表現させ、又は轉寫の方法を利用させてもよい。



第十八図（男第十二図　女第十一図）兎の模様

## 17. 正多角形　用器畫　男女　二時間

**要旨**　正多角形の畫き方を知らせて、日常生活に便宜を與へると共に、綿密・正確に作圖する力を養ふ。

**準備**　正多角形の標本。

**指導**　1. 第十九圖（男第十三圖・女第十二圖）を觀察させ、標本と相俟つて順次正三角形・正方形・正五角形・正六角形・正八角形の性質を明らかにし、且つその畫き方を知らせる。

2. 適當な大きさに淡く下圖を畫かせる。

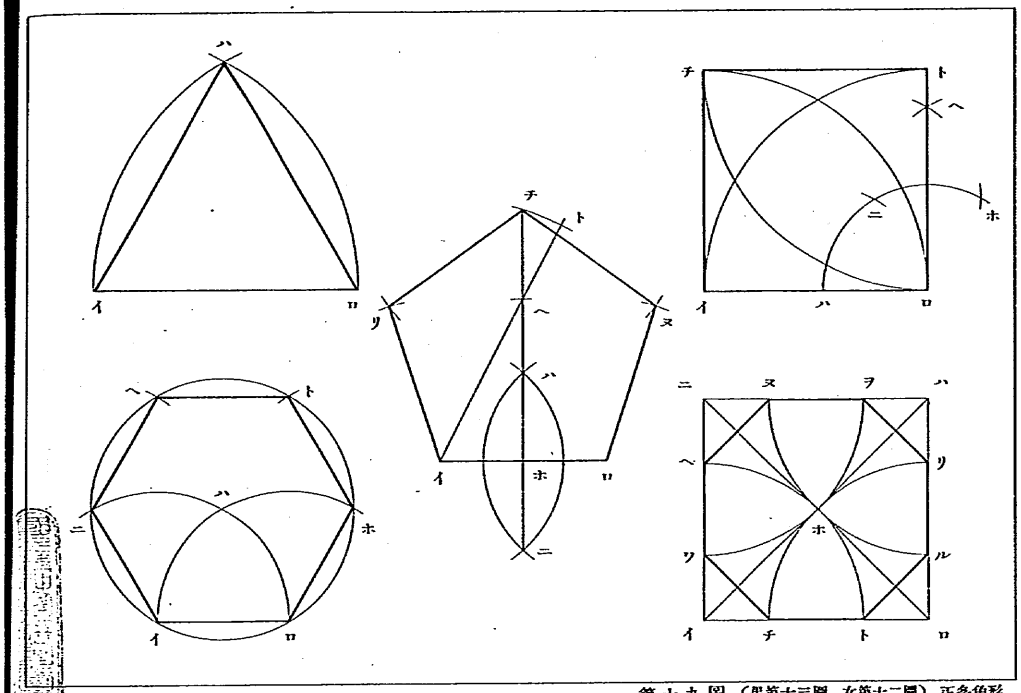
3. 鉛筆で濃く仕上げさせる。

**備考**　1. 正五角形を畫くには、イロを一邊とし、イ・ロを中心として弧を畫き、ハ・ニを求め、これを結んでイロの中點ホを求め、ホハ線の延長上にイロに等しくホヘを取り、イ・ヘを結び、その延長上にイホに等しくヘトを取り、イを中心としイトを半徑として弧を畫き、ホヘの延長上にチを求め、イロを半徑としイ・ロ・チを中心として弧を畫き、交點リ・ヌを求める。イ・リ・チ・ヌ・ロを結べば、求める形が得られる。

2. 正多角形の標本は、明るい色の厚紙を以て相當に大きく作るがよい。

3. 用具を精密に用ひさせ、特に鉛筆の先を細く削つて下圖を極めて正確に畫かしむべきである。

4. 方法線は細く、求める線は太く濃く畫かせるがよい。




第十九圖（男第十三圖　女第十二圖）正多角形

## 18. 植木鉢臺の製圖　用器畫　男　四時間

**要旨**　植木鉢臺の製圖をさせて、工作圖の畫き方を確實にする。

**準備**　植木鉢臺。

**指導**　1. 第二十圖（男第十四圖）を觀察させ、標本と相俟つて正面圖と平面圖との關係、縮尺、各部の形狀及び寸法、小口の現し方、寸法の入れ方等を明らかにする。

2. 下畫き用紙に、側面の板の形狀、及び裝飾の考案を練らせる。

3. 題目を示す文字の位置及び大きさ、製圖の順序・方法等を明らかにする。

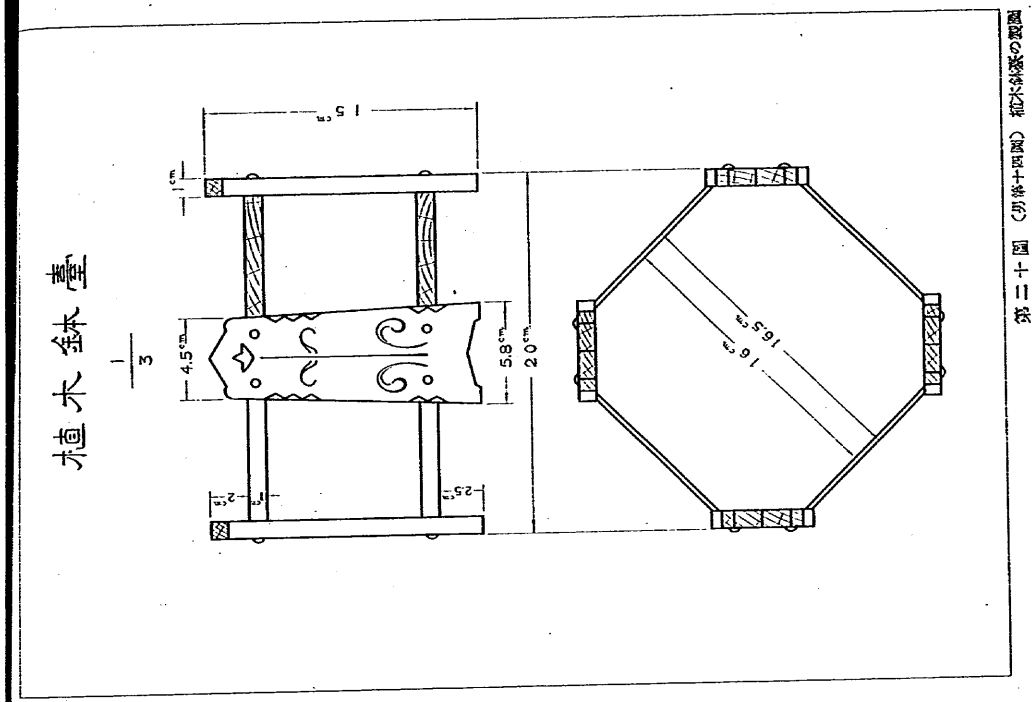
4. 適當な位置に先づ淡く下圖を畫き、正否を檢べてから仕上げさせる。

**備考**　1. 第二十圖の平面圖に 16cm とあるは甲板の寸法、16.5cm とあるは棚板の寸法を示したものである。

2. 縮尺は、$\frac{1}{2}$, $\frac{1}{5}$, $\frac{1}{10}$ 等を普通とするが、第二十圖は紙面の關係上 $\frac{1}{3}$ とした。

3. 引出線及び寸法線は、手數を省くために細い實線を以て畫くのを常とするから、こゝには其の方式を示した。

4. 時宜によつては、淡彩を施させてもよく、又手工を課する所に於ては、なるべくこれと聯關して製作させるがよい。




第二十圖（男第十四圖）植木鉢臺の製圖

## 19. 秋の草花　臨畫　男　二時間

**要旨**　秋の草花を臨畫させて、鑑賞・表現の力を高めろ。

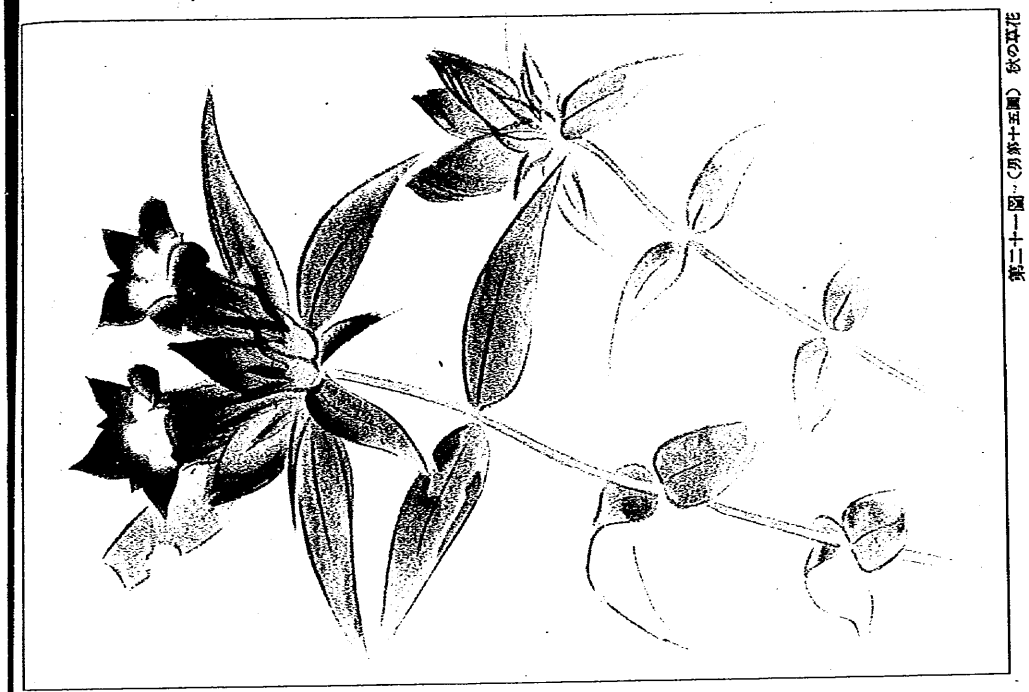
**指導**　1. 第二十一圖（男第十五圖）を鑑賞させ、全體の感じ、構圖及び形狀・色彩等を味はせろ。

2. 位置よく、淡く正しく輪廓を取らせろ。

3. 範畫の色彩及び筆觸をよく觀察させ、線畫きをした後着色させろ。

**備考**　1. 第二十一圖はりんだうを畫いたものである。

2. 實物が得られたら、それを觀察させ、觀念を明らかにしてから、畫かせるがよい。



第二十一圖（男第十五圖）秋の草花

## 20. 菊の花　寫生畫　男女　二時間

**要旨**　菊の花を寫生させて、鑑賞及び表現の力を高める。

**準備**　菊。

**指導**　1. 菊を適當な場所に配置して、花・葉・莖の形狀・色彩に就いて觀察させ、其の美しさを味はせる。

2. 構圖を考へ、位置よく輪廓を取らせる。

3. モデルの色彩及び明暗をよく見て、色で仕上げさせる。

**備考**　1. 第二十二圖（女第十三圖）は、大輪と中輪の菊を組合はせて、畫いたものである。

2. 全體の感じ、及び綠色の變化を現すことに力めさせるがよい。

3. 學校園・花壇等に咲いてゐるものを寫生させてもよい。

第二十二圖（女第十三圖）菊の花

## 21. 秋の景色　寫生畫　男　二時間

**要旨**　秋の景色を寫生させて、自然の美しさを味はせ、豊かな色の觀察と表現とをさせる。

**準備**　屋外寫生用具。

**指導**　1. 第二十三圖（男第十六圖）を鑑賞させ、其の構圖・色彩の變化、描法等を味はせる。

2. 屋外寫生に必要な材料及び用具を持つて、寫生する場所に行かせる。

3. 適當な場所を選定させる。

4. 構圖を考へて、輪廓を取らせる。

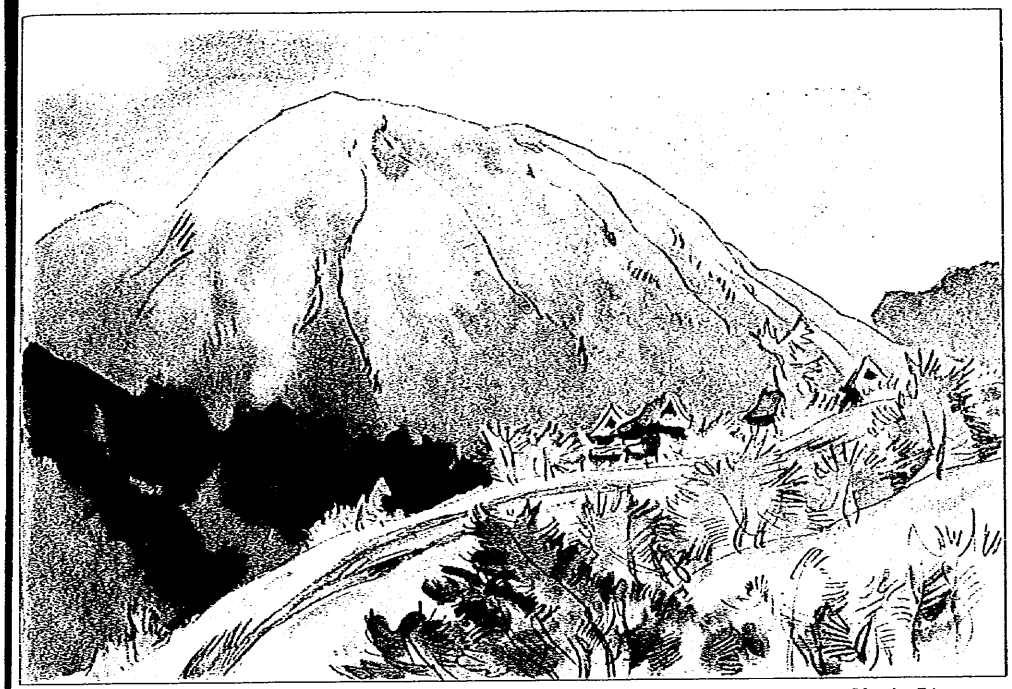
5. 自然の色をよく見て、手順よく着色して仕上げさせる。

**備考**　1. 第二十三圖は、近景を主眼とした例であり、第二十四圖は眼界の廣い景色を寫した例である。

2. 現場に於ける説明は、力めて簡潔にし、場所の選定と描寫とになるべく多くの時間を當てるがよい。

3. 秋の景色は熱色に富んでゐるから、それに注意させるがよい。

第二十三圖（男第十六圖）秋の景色 其の一



第二十四圖　秋の景色　其の二

## 22.　葉　　寫生畫　男　二時間　女　一時間

**要旨**　紅葉した美しい葉を畫かせて、精密描寫の力を養ふ。

**準備**　紅葉。

**指導**　1. 題目を豫告して、形がよく、色の美しい紅葉數枚を採集させて置く。

2. 第二十五圖（男第十七圖・女第十四圖）及び採集して來た葉を鑑賞させ、自然の形及び色には、變化と統一とがあつて、よく調和してゐることを知らせる。

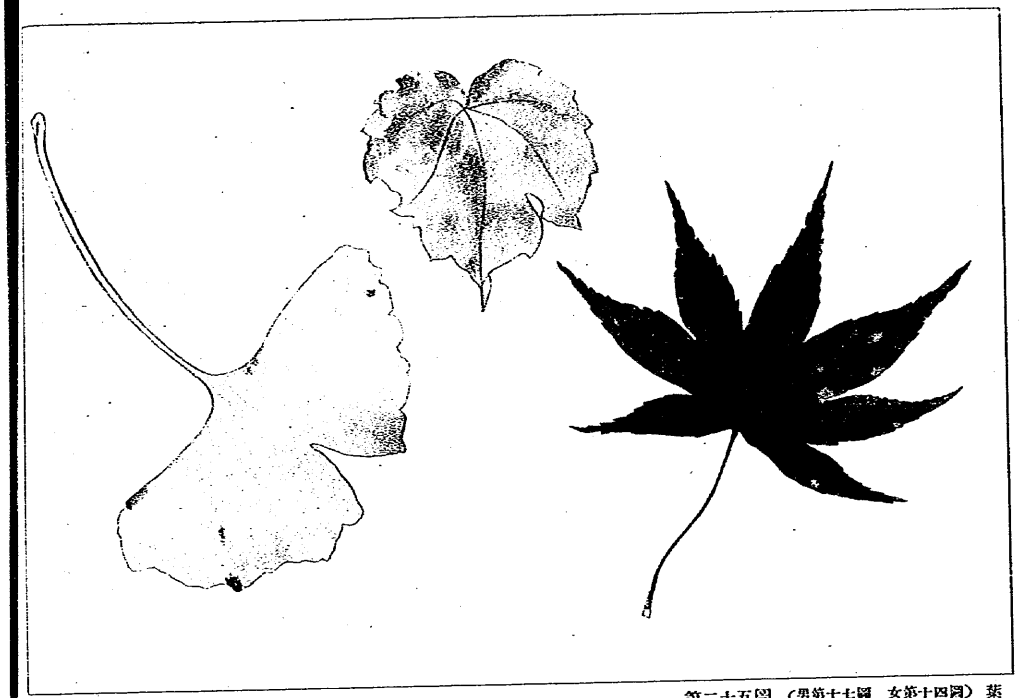
3. 適當な葉を選んで、正しく輪廓を取らせる。

4. モデルの色をよく見て、忠實に着色させる。

**備考**　1. 第二十五圖は、つた・いてふ・かへでの紅葉したものを畫いたものである。

2. 形も色も極めて正しく畫かせるがよい。

3. 葉數は各自任意にさせるがよい。



第二十五圖（男第十七圖　女第十四圖）葉

## 23. 葉の模様　圖案　男女　二時間

**要旨**　葉を資料とした模様を畫かせて、考案を練らせる。

**準備**　參考品・尺度・三角定規・コンパス。

**指導**　1. 第二十六圖（男第十八圖・女第十五圖）及び參考品を鑑賞させ、その圖案構成に就いて知らせる。

2. 考案を練らせる。

3. 形を畫いた後、配合よく着色させる。

**備考**　1. 第二十六圖の、左はひゝらぎ、右上はいてふの四方連續模様、右下はかへでの二方連續模様である。第二十七圖の左側の上はレース模様（ヨーロッパ）、中はつた（ドイツ）、下は松（日本）、右側の上はつた（日本）、中は竹の葉（支那）、下はアカンザス（ギリシヤ）である。

2. 給模様でも、獨立模様でも、連續模様でもよい。

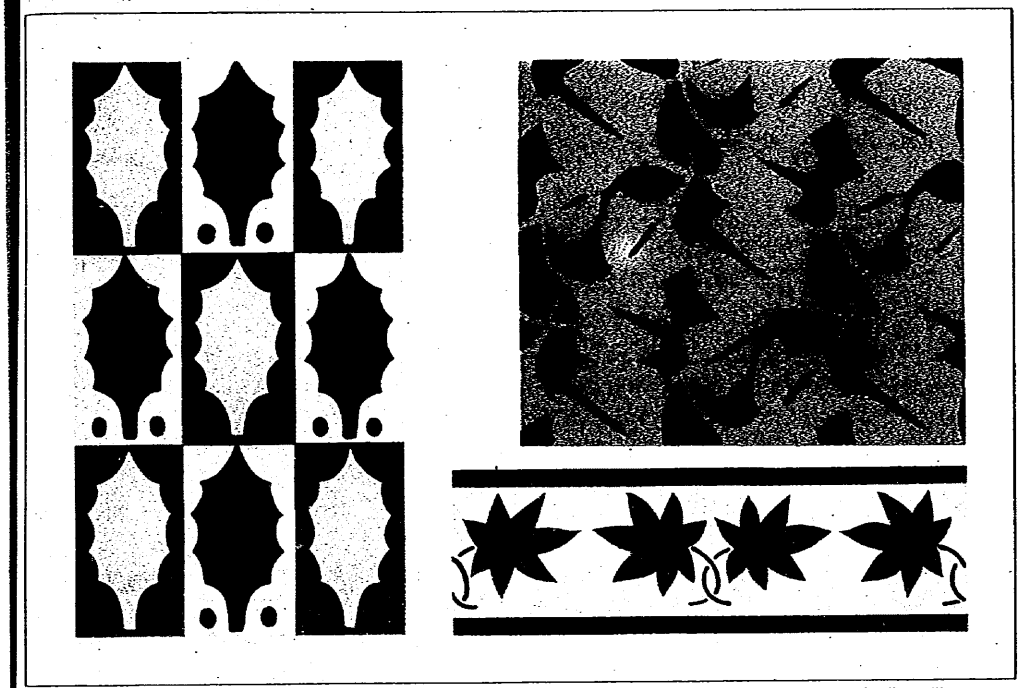
3. 時宜により、適當な色畫用紙を使はせてもよい。

4. 色の配合に注意し、模様と地色との關係を考へさせるがよい。

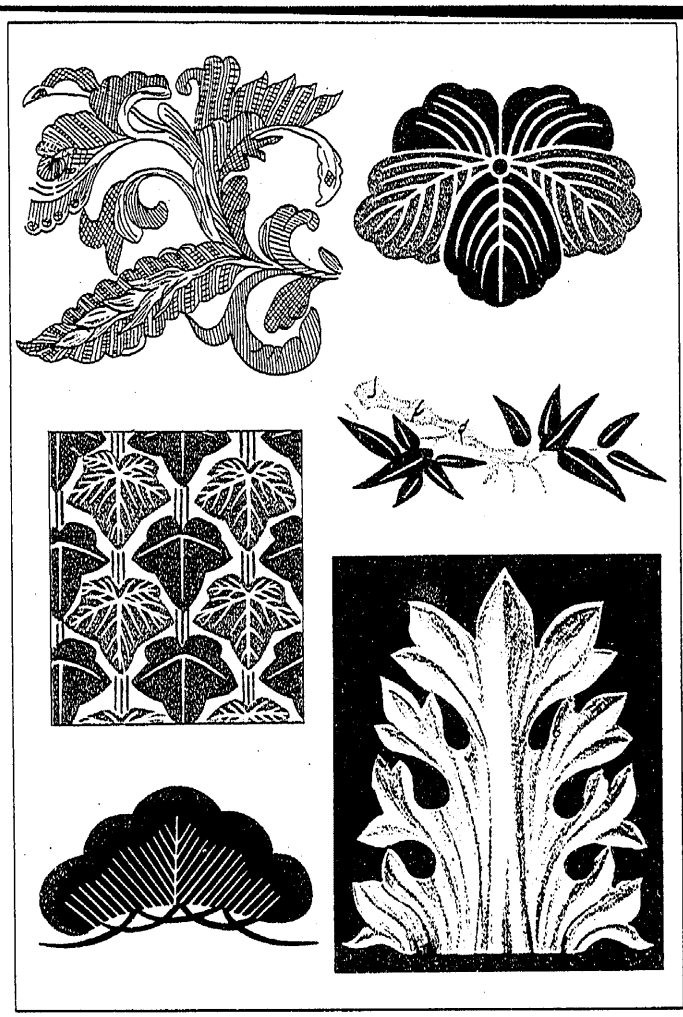
5. 地色に模様を塗り重ねる法、模様を塗り殘す法等を適宜に用ひさせるがよい。

6. 圖案には、他の色に白色を混ぜて用ひると効果の揚る場合があることを知らせる。

7. 前課で寫生したものを資料としてもよい。



第二十六圖（男第十八圖　女第十五圖）葉の模様 其の一



第二十七圖　葉の模様　其の二

## 24. 倚　　子　　寫生畫　男　二時間

**要旨**　倚子を畫かせて、主として遠近による形の變化を觀察し、表現する力を養ふ。

**準備**　倚子。

**指導**　1. 第二十八圖（男第十九圖）を鑑賞させて、遠近による形の變化、鉛筆の使ひ方、淡彩の施し方等を味はせる。

2. 數脚の倚子を適當な場所に配置する。

3. 用紙の適當な位置に、輪廓を正しく取らせる。

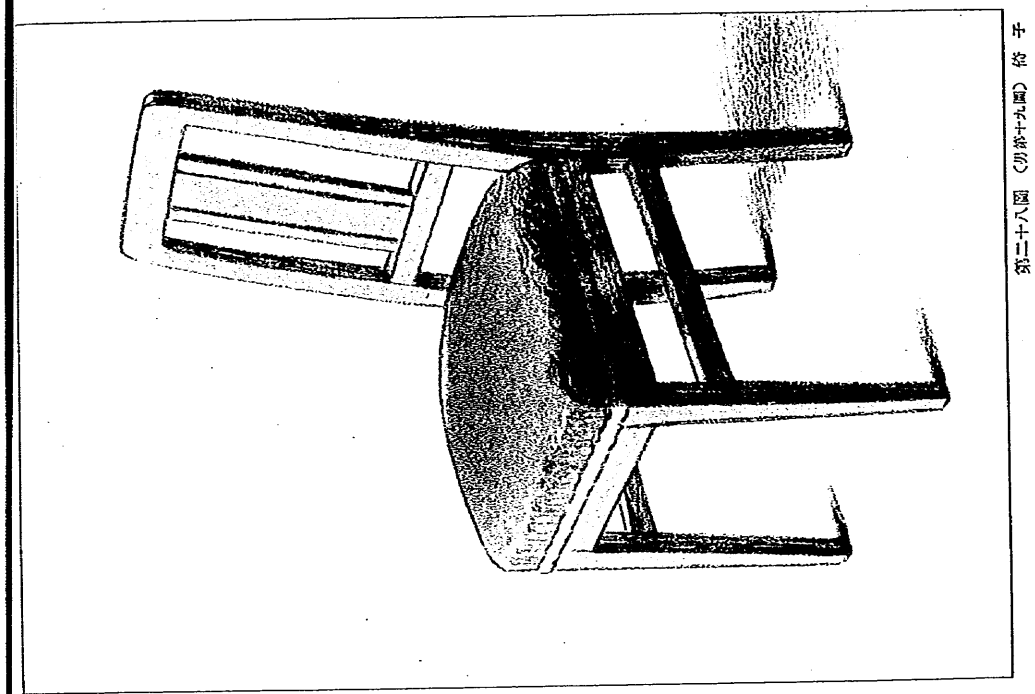
4. 鉛筆で線畫きをし、陰影を施させる。

5. 淡彩で仕上げさせる。

**備考**　1. 倚子の形はなるべく直線式で、刻形のないものがよい。第二十八圖參照。

2. 遠近による形の變化に注意し、不安定の形にならないやうにさせるがよい。

3. 鉛筆の効果を損じないために、着色が餘り濃くなつたり、濁つたりしないやうにさせるがよい。



第二十八圖（男第十九圖）倚子

## 25. ポスター　圖案　男　四時間　女　二時間

**要旨**　ポスターを畫かせて、考案を練り、應用の力を養ふ。

**指導**　1. 第二十九圖（男第二十圖・女第十六圖）を鑑賞させて、ポスターの用途・着想・構成等に就いて説明する。

2. 適當な題材を選ばせる。

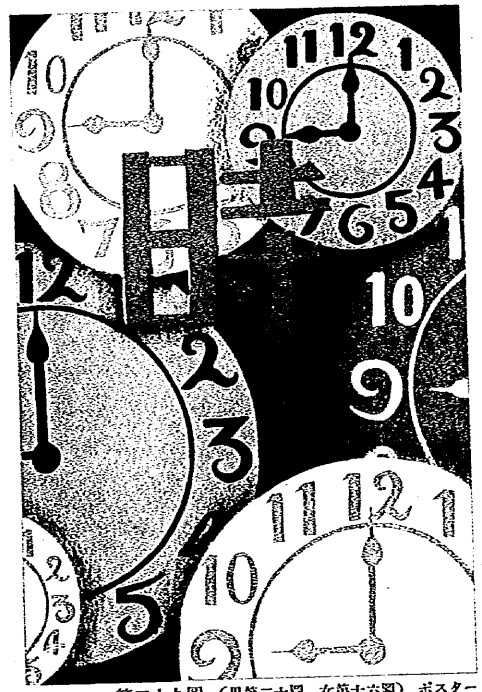
3. 先づ下畫き用紙に大體の圖柄を畫かせ、十分に考案を練り、着想・構圖・形狀等を整へさせる。

4. 形を畫かせ、色の配合を考へて着色させる。

**備考**　1. 第二十九圖は防火と時間に關するポスターの例を示したものである。

2. ポスターは、宣傳・廣告の意をよく現し、人の注意を引くことを目的とするから、簡明を旨とし、併せて裝飾的であることが必要である。

3. 作品は、學校・家庭等適當な場所に掲げて、實用に供へさせるがよい。



第二十九圖（男第二十圖　女第十六圖）ポスター

# 第　三　學　期

## 26.　鞄　　寫生畫　男　二時間

**要旨**　鞄を寫生させて、描寫の力を高める。

**準備**　鞄。

**指導**　1. 第三十圖（男第二十一圖）を鑑賞させる。

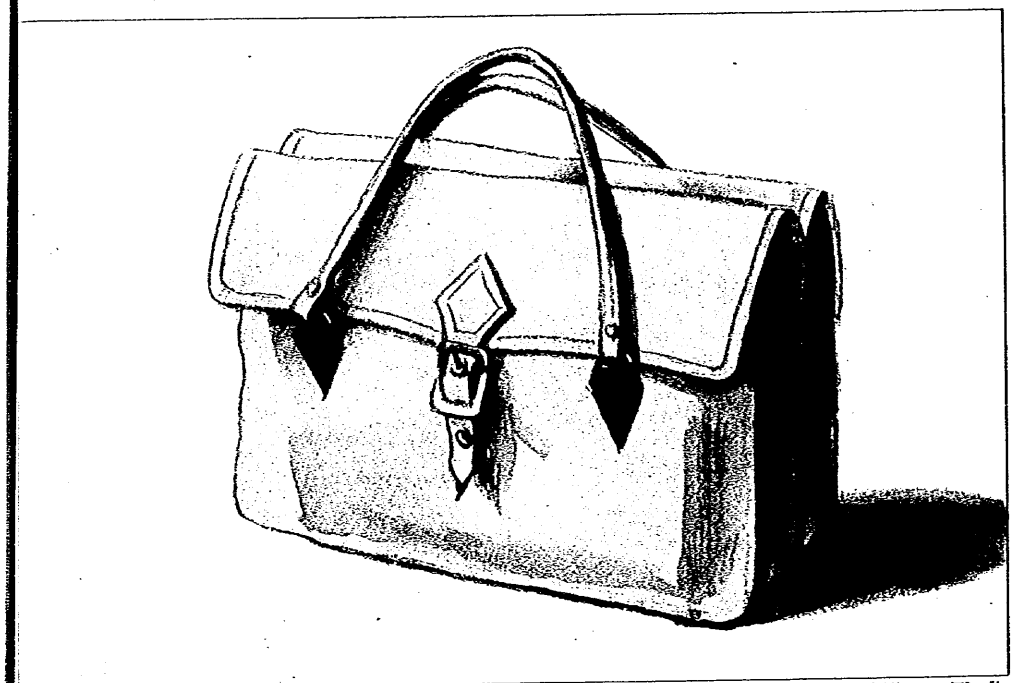
2. 鞄をモデル臺の上に置いて、形を整へさせる。

3. 輪廓を正しく取つた後、鉛筆で明暗を附けさせる。

4. 淡彩で仕上げさせる。

**備考**　1. 第三十圖は、布製の鞄を畫いたものであるが、革製の鞄、又はランドセルを畫かせてもよい。

2. 形の遠近、各部の明暗等に注意させるがよい。



第三十圖（男第二十一圖）鞄

## 27. 裁　縫　箱　寫生畫　女　二時間

**要旨**　裁縫箱を畫かせて、モデルの組合はせ方、及び表現法を會得させる。

**準備**　裁縫箱。

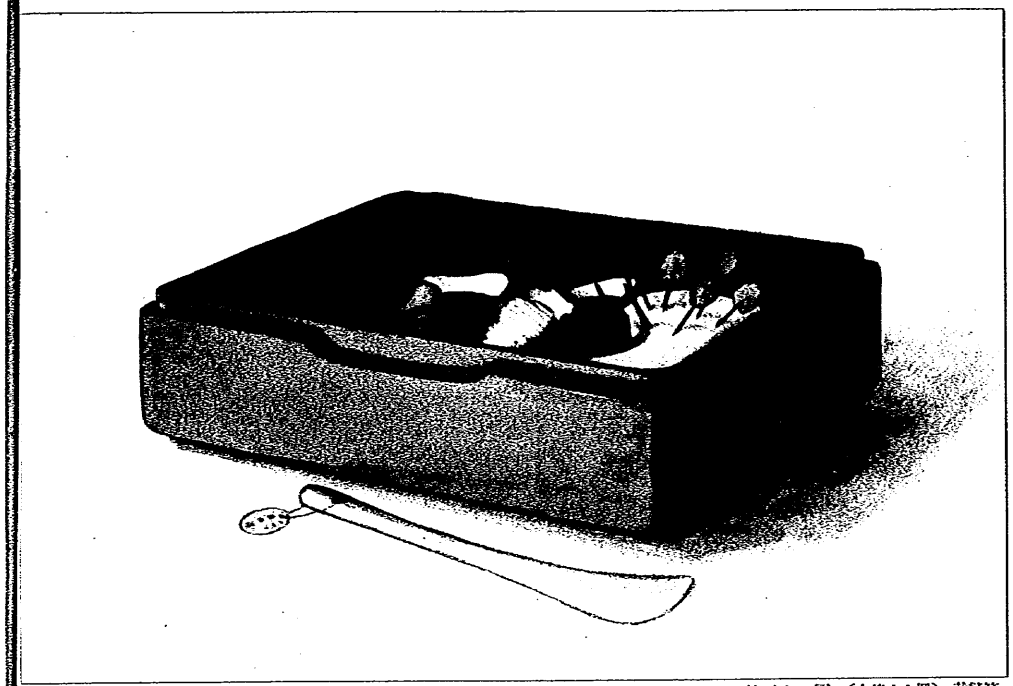
**指導**　1. 題目を豫告して、裁縫箱を持參させる。

2. 第三十一圖（女第十七圖）を鑑賞させた後、机上又はモデル臺の上に、裁縫用具をよい組合はせに配置させる。

3. 輪廓を正しく取つた後、色彩及び明暗をよく見て、着色させる。

**備考**　1. 第三十一圖は、廣く用ひられてゐる兒童用の裁縫箱を示したのであるが、實際には各自の持つてゐるものを畫かせるがよい。

2. 特に遠近による形の變化、並びに明暗による色の變化に注意させるがよい。



第三十一圖（女第十七圖）裁縫箱

## 28. 學　用　品　寫生畫　男　二時間

**要旨**　學用品を畫かせて、モデルの組合はせ方、及び表現法を會得させろ。

**準備**　學用品。

**指導**　1. 題目を告げて、畫かうとする學用品を携帶させろ。

2. モデルを各自の机上又はモデル案の上に、最もよい組合はせに配置させろ。

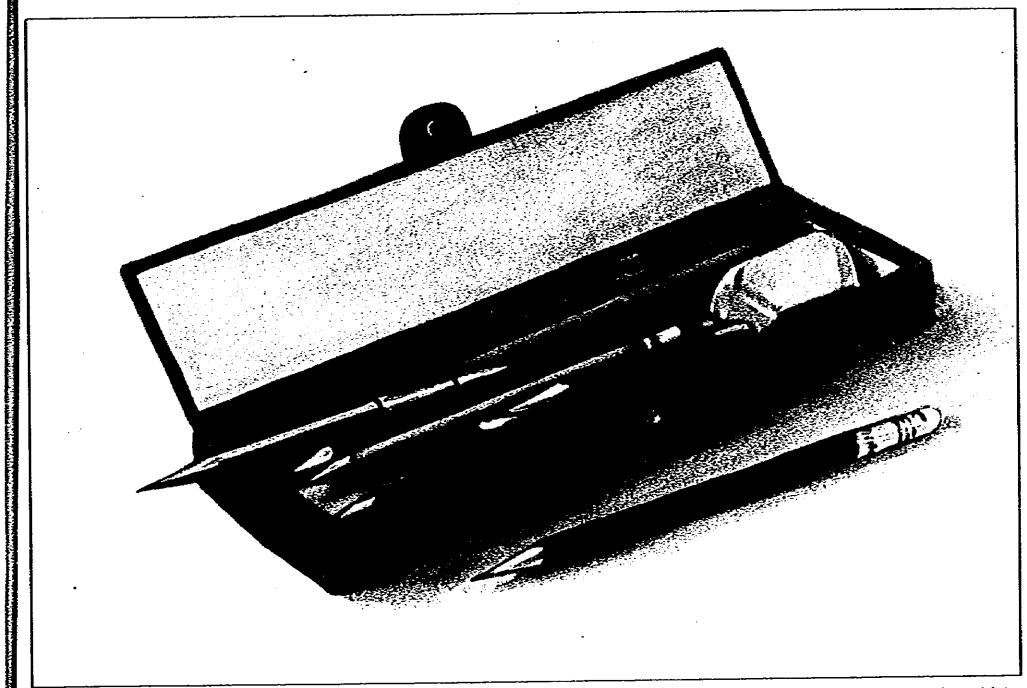
3. 組合はせを定めた後、輪廓を正しく取らせろ。

4. 色彩及び明暗をよく見て、着色させろ。

**備考**　1. モデルは文房具・手工用具・製圖用具等の中から選ばせるがよい。第三十二圖參照。

2. 組合はせ方は、亂雜に流れぬやう、又餘り變化に乏しくならぬやう注意するがよい。

3. 見る位置、遠近による形の變化、各部の割合、色彩・明暗に注意させるがよい。



第三十二圖　學用品

## 29. アイロン　寫生畫　男女　三時間

**要旨**　アイロンを畫かせて、光澤ある物の畫き方を會得させる。

**準備**　アイロン。

**指導**　1. 第三十三圖（男第二十二圖・女第十八圖）を鑑賞させ、鉛筆の使ひ方、及び明暗の現し方を味はせる。

2. モデルを適當な場所に配置して、其の形狀・割合等をよく觀察させる。

3. 構圖を考へ、正しく輪廓を取らせる。

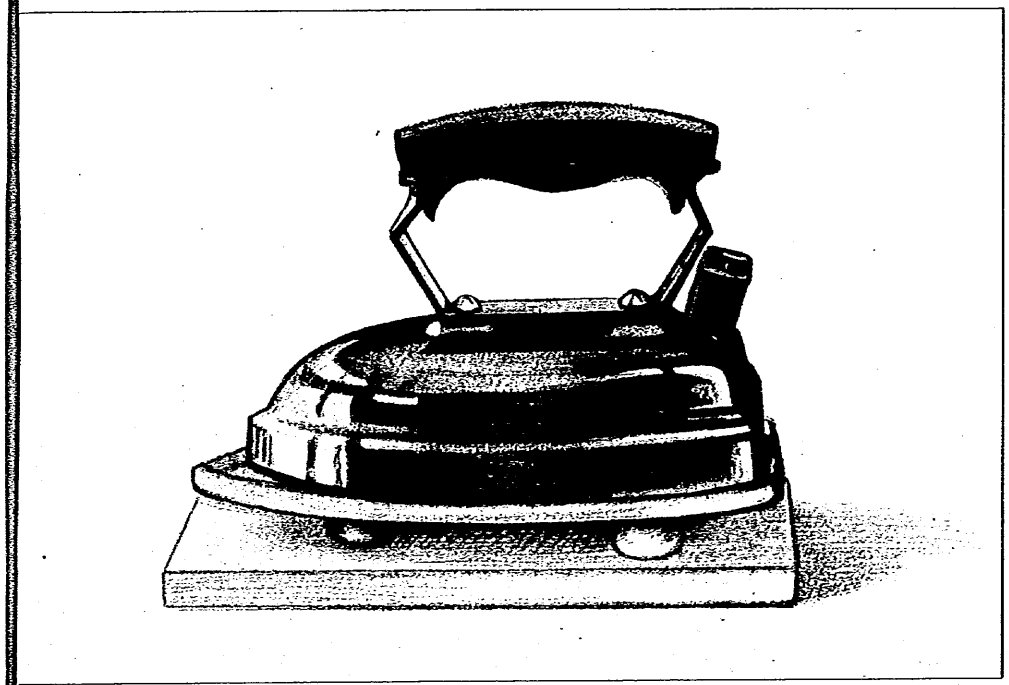
4. 明暗及び曲度をよく見て、鉛筆で强く畫かせる。

5. 淡彩で仕上げさせる。

**備考**　1. 第三十三圖は、電氣アイロンを畫いたものであるが、適宜學校にあるものを畫かせるがよい。

2. アイロンは畫きにくい形をしてゐるから、指導上特に注意するがよい。

3. 光つてゐる感じを現はすことに力めさせる。



第三十三圖（男第二十二圖　女第十八圖）アイロン

## 30.　やくわん　寫生畫　男　三時間

**要旨**　やくわんを畫かせて、觀察力と描寫力とを進める。

**準備**　やくわん。

**指導**　1. 第三十四圖（男第二十三圖）を鑑賞させて、色彩・明暗等を味はせる。

2. やくわんを適當な場所に置き、各部の形狀・色彩・明暗等を觀察させる。

3. 位置及び構圖を考へて、正しく輪廓を取らせる。

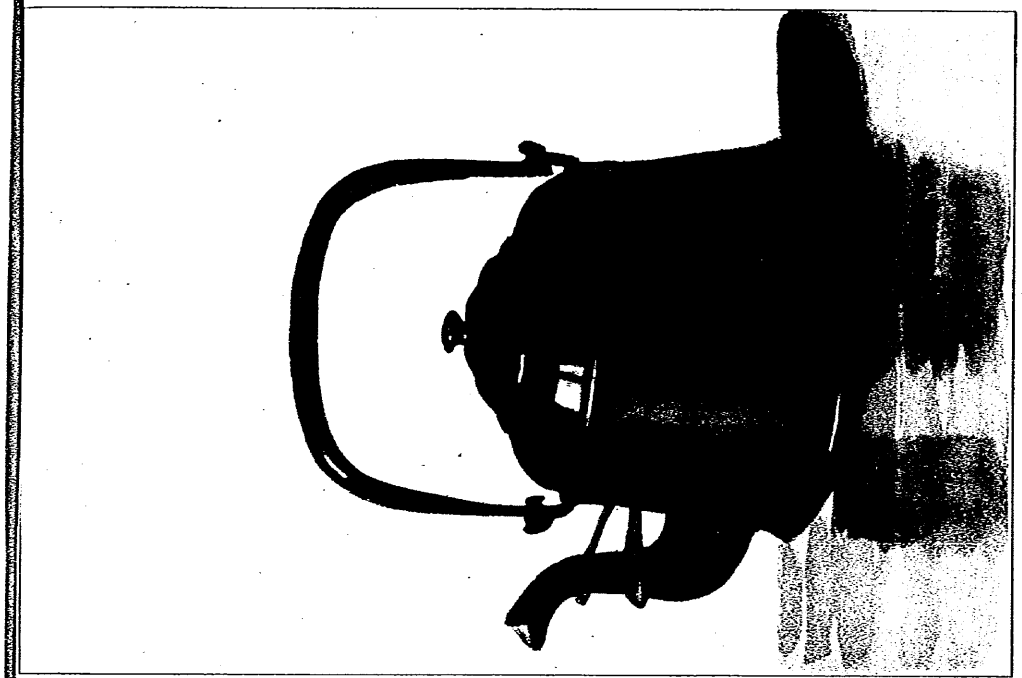
4. 大體を整へた後、仕上げさせる。

**備考**　1. 第三十四圖は、琺瑯引の大やくわんを畫いたものであるが、銅又はアルミニユウム製のものでもよい。

2. 向き、各部の形狀及び割合・曲度等に注意して、輪廓を取らせるがよい。

3. 最光部の位置及び形と、其の現し方に注意させる。

4. モデル臺上の倒像は畫かせないでもよいが、畫かせるなら、正しく寫させるがよい。



第三十四圖（男第二十三圖）やくわん

## 31. びんに壺　寫生畫　男　四時間　女　三時間

**要旨** びんと壺を畫かせて、其の組合はせ方と、透明な物及び光澤ある物の現し方とを會得させる。

**準備** びん・壺。

**指導** 1. 第三十五圖（男第二十四圖・女第十九圖）を鑑賞させ、びんと壺の組合はせ方、透明なびん、光澤ある壺の色彩、及び最光部・陰影等の現し方を味はせる。

2. モデルを適當な場所に、よい組合はせに配置させる。

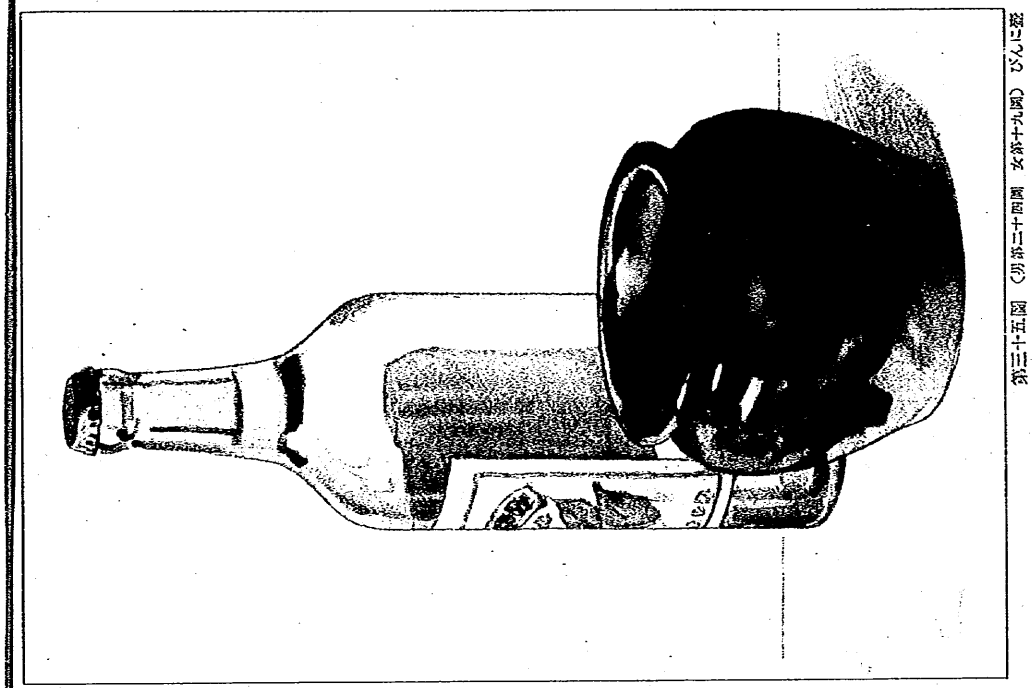
3. 位置・大きさ・割合・曲度・遠近をよく觀察して、正しく輪廓を取らせる。

4. モデルの色彩及び明暗を見て、大體から部分へと着色させる。

**備考** 1. びんも壺も前に畫いたものでもよいが、なるべくは變つたものがよい。

2. 色彩・明暗に注意して、質とまるみを現すことに力を注がせる。

3. 一通り畫けたならば、少し離してモデルと對照し、形・色・明暗等を整へさせるがよい。



第三十五圖（男第二十四圖　女第十九圖）びんに壺

## 32.　果　　物　　寫生畫　男　二時間

**要旨**　果物を畫かせて、組合はせと描寫との力を養ふ。

**準備**　果物。

**指導**　1. 第三十六圖（男第二十五圖）を鑑賞させ、組合はせたバナナと三寶蜜柑、テーブル及び背景の色彩・明暗等を味はせる。

2. モデルを適當な場所に、よい組合はせに配置させる。

3. 構圖を考へ、輪廓を取らせる。

4. 色彩及び明暗をよく見て、大體から細部へと仕上げさせる。

**備考**　1. モデルは、林檎・柑橘類・バナナ等の中から、形及び色のよいものを選ぶがよい。

2. なるべく、のびのびと大きめに畫かせる。

3. 立體の感じを現すと共に、全體の調子を整へることに力めさせるがよい。

第三十六圖（男第二十五圖）果　物

## 33.　野　　菜　寫生畫　男　二時間

**要旨**　野菜を畫かせて、構圖・表現の力を養ふ。

**準備**　野菜。

**指導**　1. 第三十七圖（男第二十六圖）を鑑賞させ、白菜と玉蔥との組合はせ方、及び形狀・色彩・明暗等を味はせる。

2. モデルを適當な場所に、よい組合はせに配置させる。

3. 構圖を考へ、位置よく正しく輪廓を取らせる。

4. 色彩・明暗等をよく見て、仕上げさせる。

**備考**　1. 野菜は物によつて形が不規則であるけれども、力めて正確に畫かすべきである。

2. 白菜や大根のやうに、白いものの陰影を現す方法に就いては、特に指導するがよい。

第三十七圖（男第二十六圖）野　菜

## 34. 果物に野菜　寫生畫　女　二時間

**要旨**　果物と野菜を畫かせて、その組合はせ方及び表現法を會得させる。

**準備**　果物・野菜。

**指導**　1. 第三十八圖（女第二十圖）を鑑賞させた後、モデル臺の上に果物と野菜とを最もよい組合はせに配置させる。

2. 輪廓を正しく取らせる。

3. 色彩及び明暗をよく見て、着色させる。

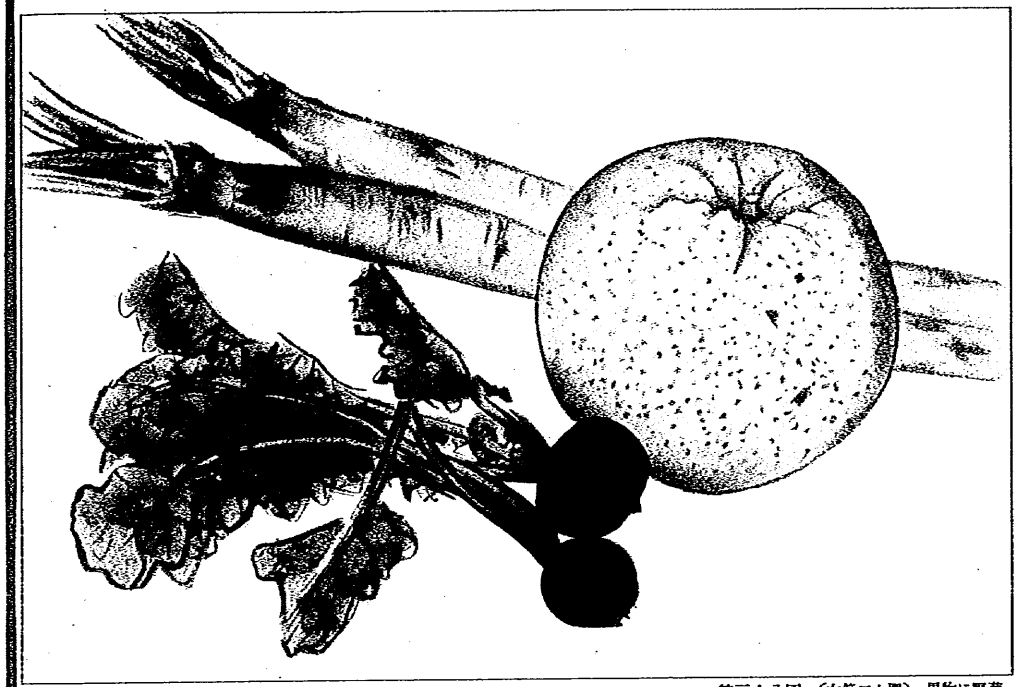
**備考**　1. 第三十八圖は、夏蜜柑・かぶら・ごぼうを描いたものである。

2. 見下すやうな位置を取らせるがよい。

3. なるべく大きく畫かせ、質及び立體の感じを現すことに力めさせるがよい。

4. 野菜を竝べると、とかく重なり合つて見え、構圖の變化を缺くやうになるから、多少見下すやうな位置にモデルを置かせるがよい。

5. なるべく大きく畫かせ、細長い物は第三十八圖のやうに、その全體を畫面に取入れなくてもよい。



第三十八圖　（女第二十圖）　果物に野菜

## 35. 果物に野菜　思想畫　男　二時間

**要旨**　果物と野菜を畫かせて、構想力を練り、表現の力を養ふ。

**指導**　1. どんな果物と、どんな野菜とを、如何に組合はせ、如何に現すかを考へさせる。

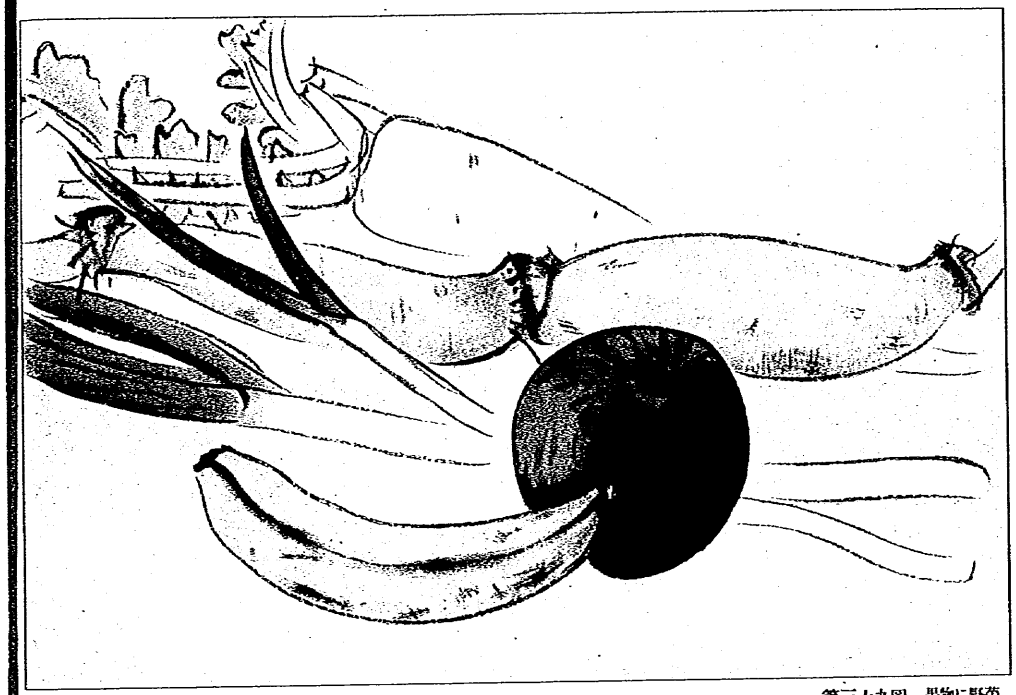
2. 十分によく構圖を考へて、輪廓を取らせる。

3. 適當な方法で、仕上げさせる。

**備考**　1. 兒童用教科書中にある果物・野菜の畫、及び兒童各自の作品を參考として作畫させるがよい。

2. 資料の選擇、組合はせに力を注がしめる。第三十九圖參照。

3. 表現の方法は、如何なる樣式によらせてもよい。



第三十九圖　果物に野菜

391
33
90

昭和九年四月十四日
文部省檢査濟

發行所　日本書籍株式會社

印刷所　凸版印刷株式會社
東京市下谷區二長町一番地

印刷者　井上源之丞
凸版印刷株式會社代表者
東京市下谷區二長町一番地

代表者　大橋光吉

發行者
翻刻　日本書籍株式會社
東京市小石川區久堅町百八番地
24

著作權所有

發行者
著作兼　文部省

昭和九年四月二十七日翻刻發行
昭和九年四月十四日翻刻印刷
昭和九年四月十五日發行
昭和九年四月十日印刷

定價金貳拾六錢

第五學年教師用
尋常小學國語讀本